

中国共産党中央委員会と
ソ連共産党中央委員会の
七つの往復書簡

外文出版社

北京

中国共産党中央委員会と
ソ連共産党中央委員会の
七つの往復書簡

外文出版社
北京

目次

7. 中国共産党中央委員会が一九六四年五月七日ソ連共産党中央委員会にあてた書簡……………二
2. 中国共産党中央委員会が一九六四年二月二十日ソ連共産党中央委員会にあてた書簡……………一六
4. 中国共産党中央委員会が一九六四年二月二十七日ソ連共産党中央委員会にあてた書簡……………三〇
5. 中国共産党中央委員会が一九六四年二月二十九日ソ連共産党中央委員会にあてた書簡……………三六
1. ソ連共産党中央委員会が一九六三年十一月二十九日中国共産党中央委員会にあてた書簡……………五三
3. ソ連共産党中央委員会が一九六四年二月二十二日中国共産党中央委員会にあてた書簡……………六
6. ソ連共産党中央委員会が一九六四年三月七日中国共産党中央委員会にあてた書簡……………六

ソ連共産党指導部がことし四月三日に公表したソ連共産党中央委員会二月総会の文書と四月三日づけのソ連『プラウダ』紙の社説は、一九六三年十一月いらい中国共産党中央委員会とソ連共産党中央委員会がとりかわした内部的な書簡の内容をねじまげてつたえ、それによつて、ソ連共産党員とソ連人民をだまし、真相を知らぬ全世界の一部の人びとをだまそうとしている。中国共産党中央委員会は一九六四年五月七日づけの書簡で、事実を明らかにし、真相をつたえるため、一九六三年十一月いらい中ソ両党がとりかわした書簡の全文を公表する必要があると考えるむね、ソ連共産党中央委員会に通知した。

つきにかかげるのは、中国共産党中央委員会が一九六四年五月七日にソ連共産党中央委員会にあてた書簡と、これよりさき、中国共産党中央委員会が一九六四年二月二十日、二月二十七日、二月二十九日にソ連共産党中央委員会にあてた書簡、ならびにソ連共産党中央委員会が一九六三年十一月二十九日、一九六四年二月二十二日、三月七日に中国共産党中央委員会にあてた書簡である。

中国共産党中央委員会が一九六四年五月七日

ソ連共産党中央委員会にあてた書簡

ソ連共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

中国共産党中央委員会は、ソ連共産党中央委員会の一九六四年三月七日づけの書簡をうけとり
ました。

あなたがたは書簡のなかで、なにかといえば「現存する意見の相違をできるだけ早く調整し」、「共産党間の公然たる論戦を停止し」、「あらゆる努力をつくして」、「共産主義運動の団結の強化をうなが」さなければならぬと述べています。しかし事實は、あなたがたのいかにも聞こえのよいこれらの言葉がまったく欺瞞的なものであることを明らかにしています。あなたがたは、この書簡をだすまえにも、だしたあとにも、中国共産党その他のマルクス・レーニン主義兄弟党にたいする攻撃をしじゅう停止していません。あなたがたは、ここ数カ月のあいだにひらかれたどの国際民主団体の会議でも、例外なくあなたがたのあやまった路線をさかんに宣伝し、

おしすすめ、反中国活動をおこなってきました。三月七日づけ書簡のだされる三週間まえ、つまり二月中旬、あなたがたは、六〇〇〇人が参加したソ連共産党中央委員会総会で反中国報告をおこない、反中国決議を採択し、中国共産党の「誤り」を「広く明らかにし」、中国共産党に「公然と、だんことして反撃」しなければならぬ、とのべました。

これらはすべて、あなたがたの三月七日づけの書簡が二つの手口をもてあそぶ芝居にすぎないことを、あからさまに暴露しています。あなたがたは、いわゆる「意見の相違の克服と国際共産主義運動の団結にたいする深い関心」という看板にかくれて、中国共産党その他のマルクス・レーニン主義兄弟党に反対するキャンペーンを新たにもしあげようと準備を強め、社会主義陣営と国際共産主義運動を公然と分裂させる大きな陰謀をくだしています。

わたしたちはすでに、あなたがたにたいして、公然たる論戦にたいするわたしたちの一貫した立場をいくども明らかにしてきました。あなたがたが、わたしたちのたびたびの勧告を無視し、かたくなに公然たる論戦をひきおこし、それを拡大し、わたしたちとその他の兄弟党にたいして大量の公然とした攻撃をおこなっている以上、兄弟党が一律平等であるという原則にもとづいて、わたしたちとその他の兄弟党は、公然とした回答をおこなう権利をもっています。あなたがたがどれだけわたしたちを攻撃するかによって、わたしたちは、その分だけ回答する権利をもつ

現在までのところ、わたしたちの新聞・雑誌は、あなたがたの一九六三年七月十四日づけの公開書簡にたいし、まだ回答し終わってはいません。公開書簡をだしたのちの一時期中、あなたがたが発表した二〇〇〇をこえる反中国の論文や資料にたいし、また、いく十の兄弟党がわたしたちを攻撃した大量の決議、声明、論文にたいして、わたしたちはまだ回答をはじめてはいませんが、回答し終わるまではなおさらまだまだ時間がかります。これほど大量の決議と声明、これほど大量の論文、書籍、パンフレットが中国共産党を攻撃しています。しかも、あなたがたはこれらの攻撃を取り消すことを公然と宣言してはいません。それでいて、どうしてわたしたちに公然とした回答の権利を放棄させることができるでしょうか。

あなたがたは、各種の国際会議をふくむさまざまな公開の場で、マルクス・レーニン主義の基本原理にそむき、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則にそむいて、いたるところで自己流の「平和移行」、「平和競争」、「平和共存」という総路線を宣伝し、おしすすめ、ひたすら全世界人民の公敵であるアメリカ帝国主義と手をにぎって、民族解放運動に反対し、プロレタリア革命に反対し、プロレタリアート独裁に反対し、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結を破壊しようとしています。あなたがたは自分のあやまった路線をむりやり兄弟党にお

しつけようとし、国際民主団体におしつけようとしています。あなたがたのしでかしたこうした数多くの悪事にたいし、世界革命の前途と人類の運命にかかわりをもつかくも重大な原則問題にたいして、わたしたちと全世界のマルクス・レーニン主義者があなたがたの修正主義、分裂主義の誤りを公然と暴露せず、それに反対せず、自分の立場と観点を公然と明らかにしないで黙っているように期待することがどうしてできるでしょうか。

以前あなたがたは、ソ連共産党第二十二回大会で公然たる論戦をひきおこしたのは「レーニンの方式にしたがつて事をはこぶ」のだ、とのべました。ところが、今回の書簡では、公然たる論戦を停止するのは「レーニンの遺訓」だ、とのべています。いったいどちらの論法が正しいのですか。もし、あなたがたがほんとうに公然たる論戦を停止しようとしているのであれば、あなたがたの第二十二回大会は誤りをおかしたのではないででしょうか。あなたがたはこの誤りを見とめる用意があるのですか。

5
あなたがたがことし四月三日に公表したソ連共産党中央委員会二月総会の反中国報告と反中国決議およびその後の一連の事実のなから、いつそうはつきり見てとることができるように、あなたがたがもちだしたいいわゆる公然たる論戦の停止は、わたしたちの口を封じて、あなたがたが好き勝手に自分たちの修正主義と分裂主義の路線をおしすすめようとするものにほかならないの

中ソ両党会談と全世界兄弟党代表者会議の問題については、わたしたちはことし二月二十九日づけの書簡のなかで、こう提案しました。ことし十月に中ソ両党会談を再開して、全世界兄弟党代表者会議の準備をととのえる。そのあとで、一七カ国兄弟党による代表者会議をひらき、一歩すすんで、全世界兄弟党代表者会議の準備をととのえる。準備がととのつてから全世界兄弟党代表者会議を招集し、この会議をマルクス・レーニン主義の革命的原則の基礎のうえに立つ団結の大会にしよう、と。

あなたがたはことし三月七日の書簡のなかで、わたしたちの合理的提案に賛成せず、しかも、わたしたちが故意にひきのばしをはかっていると攻撃しています。あなたがたは、ことし五月に中ソ両党会談をおこない。ことし六、七月に兄弟党代表者による準備会議をひらき、ことしの秋に全世界兄弟党国際会議をひらくよう要求しています。

ちよつと見ると、あなたがたはいかにも熱心で、いかにも積極的であるようにみえます。しかし、あなたがたがもちだしたこのように切りつめた時間表は、けつして意見の相違をとりのぞき、団結を強めるためのものではありません。それとはまったく反対に、ますます多くの事実が証明しているとおり、これはあなたがたが国際共産主義運動を公然と分裂させるのに拍車をかけ

ようとする陰謀の段どりなのです。

すでにことし二月十二日、わたしたちにかくれて、あなたがたは各兄弟党に中国共産党に反対する書簡を送りました。あなたがたはわたしたちにあてたことし二月二十二日づけの書簡のなかで、あなたがたがその反中国書簡のなかでわたしたちに「反撃」をくわえよとよびかけたこと、「集団的措置をとる」ことをもらしています。あなたがたは、ことし二月十四日と十五日のソ連共産党中央委員会総会で、「公然と、だんこととして、中国共産党指導部のあやまった観点と危険な行動に反撃」しなければならぬ、と決定しました。いいかえれば、あなたがたはすでにたまをこめ、いまにも引き金を引こうとしています。こうした状況のもとで、あなたがたがことし五月に中ソ会談をおこなって「現存する意見の相違をできるだけ早く調整する」ことを提起したのは、まったくの偽善ではないでしょうか。

わたしたちは、ソ連共産党の同志に問いただしたい。あなたがたはなぜそんなにあせるのか。あなたがたは、わたしたちがことし五月に中ソ両党会談をおこなうことに賛成しないばあい、これを口実として一方的に国際会議の招集を強行し、公然と決裂するつもりなのか、と。

中国共産党の一貫した立場は、団結を堅持し、分裂に反対することです。わたしたちは終始たゆみなく、意見の相違をとりのぞき、団結を回復することに努めてきました。現在、わたしたちと

あなたがたとのあいだにある意見の相違は、マルクス・レーニン主義の一連の基本原理にかかわる重大な意見の相違であることを、わたしたちもはっきり知っています。この意見の相違は、ソ連共産党第二十回大会にはじまり、ソ連共産党第二十二回大会とそれ以後一段と激化したものがあります。これほど長いあいだにわたって積み重ねられてきた原則的な意見の相違が一朝一夕に解決できるものでないことは、明らかです。これには時間が必要であり、辛抱強さが必要です。

わたしたちはことし二月二十九日づけの書簡のなかで、ことし十月に中ソ両党会談を再開するよう提起しましたが、当時おもに考慮したことは、七カ月の時間をとって一連の準備をととのえようというのでした。たとえば、わたしたちは、あなたがたがことし二月十二日に兄弟党におくった書簡を手に入れて、その内容を理解する必要がある、あなたがたがもちだすといいたてている宝器、つまり、「観点をなおやけにする」とか、「文書や資料を公表する」とか、「もつともだんこたる反撃」とか、「集団的措置」などというものを教えてもらう必要がある、あなたがたの攻撃に回答する必要がある、あなたがたが新たに持ちだした宝器に反応を示す必要がある、ます。これらはすべて、時間がかかるのです。

遺憾ながら、わたしたちが再三請求したにもかかわらず、現在にいたつてもなおあなたがたはことし二月十二日兄弟党におくった書簡をわたしたちにおくることをなんの理由もなしに拒否しています。あなたがたはつぎのことを知るべきです。その書簡はわたしたちを攻撃したものであり、ひじょうに多くの兄弟党におくられたものであり、なぜ、よりよつてわたしたちにだけおくらないのですか。わたしたちは、それをわたしたちにおくるようあなたがたに要求する権利をもっています。いま、わたしたちはその書簡をわたしたちにおくるよう、もういちど請求します。もしおくらないならば、たとえ一万年でもわたしたちはあくまで請求しつづけます。

あなたがたの宝器については、ことし四月三日いらい、あなたがたはそれをちよつぱり出してみせたといえるでしょう。見たところ、いま、あなたがたは、はりきつており、いいたいことがまだたくさんあるようです。しかし、現在にいたるまでわたしたちは、あなたがたがほかにまだどんな宝器をもっているのか知りませんし、あなたがたの「もつともだんこたる反撃」とか、「集団的措置」とかが、はたしてどんなものであるのかも知りません。

そこで、たずねたいのです。こうした状況のもとで、中ソ両党会談と兄弟党の国際会議をどうして首尾よくひらくことができるのだろうか。なにか話し合えるようなことがあるだろうか。ひとしきりいいあらそつて、なんの成果もなく、散会してしまうのではないだろうか。それとも、ここから公然と分裂し、各自が自己の道をあゆむことになるのか。あなたがたは公然と分裂する決意でいるともいうのだろうか、と。

同志のみなさん、わたしたちは分裂に反対します。あなたがたがもちだすと高言した宝器が全部もちだされるまでは、双方の論点と意図が全部はつきりするまでは、そして準備が十分にとのえられるまでは、たとえ中ソ両党会談や兄弟党の国際会議を開いても、ただ分裂をもたらすだけです。わたしたちはこれに同意することができません。

当面の状況から見ると、ことし五月に中ソ両党会談をひらくのが不可能であるばかりでなく、ことし十月にひらくのも早すぎます。わたしたちの見るところ、中ソ両党会談は来年の上半期、たとえば来年五月までくりのべるのが比較的妥当だとおもいます。その時になっても、まだ機が熟さないと中ソ両党のどちらかが考えたなら、ひきつづき開催をおくらせてもよいでしょう。

全世界のすべての共産党・労働者党の代表者会議の準備会議をいつ開くか、これは中ソ両党会談の結果を見てきめねばなりません。この準備会議に参加するメンバーは、各兄弟党と話し合つて決めてもよいでしょう。しかし、わたしたちはやはり、ことし二月二十九日の書簡でわたしたちが提案した一七カ国、つまり、アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ベトナム、ドイツ民主共和国、中国、朝鮮、キューバ、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、ソ連、チェコスロバキアおよびインドネシア、日本、イタリア、フランスの兄弟党が準備会議に参加するのが妥当だと考えます。

原則的にいって、わたしたちは、準備会議のメンバーをふやすことに反対ではありません。しかし、わたしたちは、あなたがたが書簡のなかで提出しているように、準備会議に参加するメンバーを一七カ国の兄弟党から二六カ国の兄弟党にふやすという提案には同意できません。なぜなら、いまの事情は、一九六〇年とひじょうにちがっているからです。あなたがたがもち出したリストのうち、いくつかの国には二つの党があります。たとえば、オーストラリアには、ヒルを代表とする党がありますし、シャーキーを代表とする党もあります。前者はマルクス・レーニン主義の党ですが、後者は修正主義の党です。ブラジルにも、おなじような事情があります。このうちいったいどちらの党が参加するかについては、わたしたちとあなたがたとの間に明らかに意見の相違があります。また、たとえばインドでは、ダンゲ一味はすでにインドの大ブルジョアジ、大地主の手先、共産主義の裏切り者に墮落しています。わたしたちは、たずねたい。裏切り者ダンゲ一味をどうして兄弟党会議に参加させることができるのか、と。準備会議のメンバーをふやすなら、なによりもまず、マルクス・レーニン主義を堅持し、英雄的な革命闘争をおこなっている兄弟党を考慮にいれるべきである、とわたしたちは考えます。

全世界のすべての共産党・労働者党の代表者会議についていえば、この会議はかならずマルクス・レーニン主義の基礎のうえに立つ団結の大会でなければならず、絶対に分裂の大会となつて

はならない、というのがわたしたちの考えです。そのためには、十分な準備をととのえねばならず、あわてて開いてはなりません。これは、わたしたちの一貫した態度であり、また、わたしたちと思想のうえでくいちがいがあつていづれの兄弟党をもふくむ、全世界の多くの兄弟党に共通した態度でもあります。この態度は、かつてあなたがたの賛成をえたことがあります。あなたがたは一九六三年十一月二十九日にわたしたちにあつた書簡のなかで、この会議を「世界共産主義運動の分裂をもたらすのではなく、すべての兄弟党、すべての平和勢力と社会主義勢力の真の一致団結をもたらす」会議にするような条件をつくりださなければならぬことに賛意をしめしました。もしも公然たる決裂をいそぐのでなければ、あなたがたはいそいでことしの秋に国際会議を招集すべきではありません。わたしたちはあなたがたに、じっくり考えてみるようすすめます。こんにちのこのような状況のもとでは、兄弟党の国際会議は早く開くよりもやはりおそく開くほうがよいし、さらには、開くよりも開かないほうがよいのです。

いまでは、第三インターナショナルのような国際組織はないし、第三インターナショナルのような国際会議招集の権限をもつ常設委員会もありません。このような状況のもとでは、ひとつの党にせよ、いくつかの党にせよ、いかなる党も、兄弟党が話し合ひで見解を統一するという原則にそむいて、一方的に全世界のすべての共産党・労働者党の代表者会議を招集する決定をすべき

ではないし、またそうすることは許されないので。そうすることは不法であり、まったくあやまったことであり、重大な結果をもたらすことになるでしょう。この点は、あなたがたも、わたしたちも、また、すべての共産党、労働者党もよく知つてのことです。もしソ連共産党中央委員会があくまでもかつてきまままにふるまい、わたしたちと多くの兄弟党の勧告に耳を傾けようとせず、あなたがたの修正主義と分裂主義のあやまった路線に賛成している一部の党を是が非でもあつめて、あわててこうした会議を招集し、それを全世界のすべての共産党・労働者党の代表者会議とするなら、あなたがたは、全世界の労働者階級、革命的人民、すべての真のマルクス・レーニン主義政党からはげしい非難をうける立場におかれることになり、あなたがたは分裂の責任を負わなければならなくなり、そして、あなたがたのかかっているいわゆる団結の旗じるしも、はるかあなたになげ捨ててしまうことになるでしょう。あなたがたはそんなことをやりたいのですか。あなたがたはそのような絶体絶命の道を歩みたいのですか。いま、わたしたちはここでこのように誠意をつくして、利害得失を明らかにした話をしてるので、事前に注意をあてえなかつたなどといわないでいただきたい。

兄弟党の国際会議を首尾よくひらくには、一連の準備をととのえる必要があり、これには、中ソ両党会談をひらくこと、その他の兄弟党のあいだで両党間、またはいくつかの党の間の会談

をおこなうこと、兄弟党による準備会議をひらいて、一致した取り決めにむすぶことなどがふくまれている、とわたしたちは考えています。当面の状況からみると、こうした準備活動には四、五年、またはそれ以上の期間を必要とするかもしれません。

わたしたちのこれらの意見は、社会主義陣営と国際共産主義運動の団結にたいする深い配慮から出たものです。あなたがたがこの意見を嚴肅かつ真剣に考慮されるよう希望します。

わたしたちはまた、ことし二月二十七日にあなたがたにあてた書簡のなかでおこなった提案を、あなたがたにもういちど考慮してほしいと考えます。それは、中ソ両党が協定をむすび、双方が各自の新聞・雑誌に、相手かたが自分たちを批判した文書、論文、資料と、自分たちが相手かたを批判した文書、論文、資料を、すでに公表したものも、こんご公表するものも、対等に掲載することです。あなたがたはことし三月七日の書簡で、わたしたちのこの提案を拒否しましたが、あなたがたはなんら筋道のとった理由をあげていません。あなたがたは中国共産党を中傷するかすかすの言論を一方的に公表していながら、ソ連共産党員とソ連人民にわたしたちの回答した論文を見せておらず、わたしたちの真の立場と観点を知らせていません。これこそ中ソ両国人民の不和を意識的にあおるものです。もしもあなたがたが真にソ連共産党員とソ連人民を信頼し、また真に自分しんを信頼するなら、あなたがたはこの問題でわたしたちと取り決めにむす

ばない理由はどこにもないのです。

あなたがたのことし二月の中央委員会総会の文書とことし四月三日づけの『プラウダ』紙の社説は、一九六三年十一月いらい中ソ両党中央委員会がとりかわした内部的な書簡の内容をねじまげてつたえ、それによつて、ソ連共産党員とソ連人民をだまし、真相を知らぬ全世界の一部のひととをだまそうとしています。事実を明らかにし、真相をつたえるため、中国共産党中央委員会は、一九六三年十一月いらい中ソ両党がとりかわした書簡、つまり、ソ連共産党中央委員会の一九六三年十一月二十九日、一九六四年二月二十二日、三月七日づけの書簡と、中国共産党中央委員会の一九六四年二月二十日、二月二十七日、二月二十九日、五月七日づけの書簡の全文を公表する必要があると考えます。わたしたちは、あなたがたも同様の措置をとり、自分の新聞・雑誌に、これら中ソ双方の往復書簡の全文を公表するよう希望します。

兄弟のあいさつをおくります！

一九六四年五月七日

中国共産党中央委員会

中国共産党中央委員会が一九六四年二月二十日 ソ連共産党中央委員会にあてた書簡

ソ連共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

わたしたちは、多くの方面から、ソ連共産党中央委員会がいま各国兄弟党あてに中国共産党に反対する書簡をおくったことを知りました。この書簡は、当面の国際共産主義運動のなかでの公然たる論戦の真相をねじまげ、デマをとばして中国共産党を中傷し、そのうえ、いわゆる「中国指導者の大國主義、トロツキズムの観点と分派、破壊活動に反対する闘争」を展開するよう扇動しています。しかし、この書簡は中国共産党にはおくられず、中国共産党には秘密にされているのです。

きびしく指摘しなければならないのは、ソ連共産党指導部が、一方では団結をのぞんでいるかのようによそおい、公然たる論戦の停止をわめきながら、他方では中国共産党にかくれて、中国共産党その他のマルクス・レーニン主義政党内に反対する新たなキャンペーンをたくらみ、セクト

活動、分派活動、分裂活動をなんらばはかるところなくおこなっていることとあります。ここ数年らしい、ソ連共産党指導部はつねに、裏ではこうやり、表ではああやり、口でいっていることと、実際にやっていることが、まったく相反しています。あなたがたのこうした悪らつな裏おもてのある手くだは、一九六〇年の声明に規定されている兄弟党間の関係の準則とプロレタリア国際主義の原則をまったくふみにじるものであります。

あなたがたがひきおこした中国共産党に反対することのたびのキャンペーンの新しい口実は、あなたがたの一九六三年十一月二十九日づけの書簡に中国共産党がまだ回答していないということとあります。しかし、おたずねしたい。兄弟党内部の意見の相違を敵の前にさらけ出さないよう、また、公然たる論戦を停止するようあなたがたに勧告した他の兄弟党の提案にたいして、あなたがたはこれまで長い間にわたってそれをうけいれず、どこまでもかっさままにふるまうことができるのに、中国共産党はソ連共産党指導部の書簡を神のおぼしめしとてあがめ奉り、それをすみやかにおうけしなければならず、そうしなければ大逆非道の大それた罪をおかしたことになる——それは、どういうわけなのか。あなたがたはなん千もの論文や資料を発表して、わたしたちを攻撃することができるのに、わたしたちは事実を明らかにし、黒白をはっきりさせる回答さえできない——それは、どういうわけなのか。道というものは、一歩一歩あるくものであり、

問題というものは一つ一つ解決すべきものです。あなたがたの書簡にたいして、わたしたちはかならず回答します。あなたがたは自分が攻撃しようと思えばただちに攻撃し、停止せよとさげすばわたしたちはただちに停止しなければならぬ、このような唯我独尊の、横暴で無法な態度は、あなたがたのかたくな大國排外主義と「おやじの党」の悪習をあますところなくさらけだしています。

今回ソ連共産党指導部が分裂をつくりだすゆゆしい行為は、あなたがたのずっとやってきたことが団結の仮面をつけて分裂をはかる陰謀であることを、またもやさらけだしています。

中国共産党の一貫した立場は、マルクス・レーニン主義の純潔をだんことしてまもりぬき、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則をあくまでまもりぬき、かつ、この基礎のうえに立って、国際共産主義運動の団結の擁護、社会主義陣営の団結の擁護、中ソ両党と両国人民の団結の擁護を堅持することです。わたしたちのこの立場は永遠に変わらないものです。わたしたちは真理に服従するのみであり、けっして原則を取り引きの道具にすることはしません。

中国共産党中央委員会は、すでに二月十八日午後、政治局員、書記局書記彭真同志を派遣して、わたしたちの意見を口頭で中国駐在ソ連大使チエルボネンコ同志に通知しました。

わたしたちは、ソ連共産党中央委員会がさいきん各兄弟党におくった中国共産党に反対する書

簡を、わたしたちにも送ってくれるようもう一度丁寧に要求します。わたしたちはあなたがたのその書簡を検討したうえ、わたしたちの回答をおこないたいと考えます。

兄弟のあいさつをおくりませう！

一九六四年二月二十日

中国共産党中央委員会

中国共産党中央委員会が一九六四年二月二十七日

ソ連共産党中央委員会にあてた書簡

ソ連共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

中国共産党中央委員会は、あなたがたの一九六四年二月二十二日づけの書簡をうけとりました。この書簡の特徴は、「不体裁な」とか、「罪過を人になすりつけるおろかなくわだて」とか、「乱暴きわまる」とか、「滑けい」とか、紙面いつばいの悪罵をあびせていて、わたしたちが一九六四年二月二十日あなたがたにおくった書簡のなかで提起した実質的な問題を、回避していることです。これではまったくものになっていません。

あなたがたは、わたしたちのことを「盗人たけだけしい」とののしっています。その実、こんどはまぎれもなく、あなたがたのセクト活動、分派活動、分裂活動こそが、その現場をおさえられており、しかも確実な証拠物件が山と積まれているのです。だからこそ、あなたがたは文字どおり盗人たけだけしい手ぐちをつかつて、目標をそらし、難関をきりぬげようとしたのです。だ

が、あなたがたが、どんなに言葉をごし、道理に合ねぬことをむりに理窟をつけていい張つても、つぎの事実を否認することは、到底できません。第一に、あなたがたはたしかに、もっぱら中国共産党に反対する書簡を、わたしたちにかくれて各国兄弟党へおくったのです。第二に、あなたがたはたしかに、わたしたちにかくれて、中国共産党を除外するいわゆる「集団的措置」をとって、国際共産主義運動をいっそう分裂させよう、としているのです。

わたしたちは、すでに二月二十日の書簡で、あなたがたが「セクト活動、分派活動、分裂活動をなんらばかるところなくおこない」、「悪らつな裏おもてのある手くだ」をつかつていると指摘し、あなたがたには「かたくな大國排外主義と『おやじの党』の悪習」があると指摘しました。あなたがたのこの書簡は、あなたがたにたいするわたしたちの批判がまったく事実と合致しており、まったく正しいことを実証しています。

あなたがたはふた言めには、関係を改善しよう、団結を擁護しよう、といっているではありませんか。ほんとうにそう望んでいるのなら、正しいことは正しいといい、間違ったことは間違ったとみとめるべきです。やはり正直にこしたことはありません。これこそ問題を真に解決できる唯一の方法であって、ほかに秘訣はないのです。

あなたがたの書簡は、こともあろうに、その書きだしで、ソ連共産党中央委員会あての中国共

産党中央委員会の書簡にたいして「まったく返答しない権利がある」といつています。ところが、あなたがたが一九六三年十一月二十九日わたしたちにあてた書簡については、わたしたちはすでに一再ならずこう説明しています。わたしたちは、かならず回答します、しかし、あなたがたの大量の攻撃にまだ回答し終わっていないので、あなたがたにそんなにせせらないよう勧めるのです、と。ところが、あなたがたは俄に激怒したのです。あたかもわたしたちが大罪を犯してもしたかのように。これが平等な態度で兄弟党を扱っているといえるのかどうか心を平静にして、一考するようお勧めします。

あなたがたは、レーニンの教えにもとづいて、慎重な態度で、自分の誤りを反省し、公然と自分の誤りを認めてそれをあらためようとしなればかりか、かえって逆にくつてかかり、事実を抹殺し、黒白を転倒して、わたしたちが分派活動をおこなっているなどと中傷しています。あなたがたは一九六〇年六月のベリシヨフ事件をさえひきあいにして、有力な証拠にしようとしましたが、しかし、それは天に唾をし、あなたがた自分じしんの顔にかかったのです。わたしたちが兄弟党の責任ある同志と国際共産主義運動について意見を交換することは、公明正大なことであり、まったく正常なことであり、なんら非のうちどころはありません。ところが、あなたがたがベリシヨフ問題でとつた行動は、まったく世間にたいして顔向けのできないものです。あなた

がたは、ベリシヨフを、兄弟党、兄弟国の指導部を転覆させ、社会主義陣営と国際共産主義運動の団結を破壊する道具に使つたのです。アルバニアの同志たちは、すでにあなたがたのこうした陰謀をあばき、ベリシヨフの問題を正しく処理しました。

もし、「他の兄弟党に反対する舞台裏での分派活動の真に最たるもの」をあげるなら、それはまさしくソ連共産党指導部じしんであります。すでに、ベリシヨフ事件の五カ月まえ、つまり一九六〇年一月に、あなたがたは、ミコヤン同志を派遣してアルバニアの指導的同志たちと会見させ、中国共産党に反対する活動をたくらんだのです。一九六〇年六月二十四日のブカレスト社会主義諸国兄弟党代表者の会談で、アルバニア代表団団長カポ同志は、フルシチョフ同志の面前で、あなたがたのこうした舞台裏での分派活動の事実を指摘しました。

あなたがたはまた、書簡のなかで、「かつて威勢をほこつた騎士」のように構えて、「文書を公表する」とか、「自分の観点をおおやけにする」とかいつています。そして一九六三年九月二十一日には、わたしたちにたいして「もつともだんこたる反撃」をくわえるときえ宣言しました。実際、あなたがたの用いたこの種のトリックがまだ足りないともいうのですか。あなたがたのもらしたことがまだ少ないともいうのですか。もし数えあげるなら、わたしたちは、ソ連共産党第二十回大会いらいの諸事実のなかから、それをどつさりあげることができます。こ

産党中央委員会の書簡にたいして「まったく返答しない権利がある」といつています。ところが、あなたがたが一九六三年十一月二十九日わたしたちにあてた書簡については、わたしたちはすでに一再ならずこう説明しています。わたしたちは、かならず回答します、しかし、あなたがたの大量の攻撃にまだ回答し終わっていないので、あなたがたにそんなにあせらないよう勧めるのです、と。ところが、あなたがたは俄に激怒したのです。あたかもわたしたちが大罪を犯してもしたかのように。これが平等な態度で兄弟党を扱っているといえるのかどうか心を平靜にして、一考するようお勧めします。

あなたがたは、レーニンの教えにもとづいて、慎重な態度で、自分の誤りを反省し、公然と自分の誤りを認めてそれをあらためようとしなればかりか、かえって逆にくってかかり、事実を抹殺し、黒白を転倒して、わたしたちが分派活動をおこなっているなどと中傷しています。あなたがたは一九六〇年六月のベリシヨフ事件をさえひきあいにして、有力な証拠にしようとしましたが、しかし、それは天に唾をし、あなたがた自分じしんの顔にかかったのです。わたしたちが兄弟党の責任ある同志と国際共産主義運動について意見を交換することは、公明正大なことであり、まったく正常なことであり、なんら非のうちどころはありません。ところが、あなたがたがベリシヨフ問題でとった行動は、まったく世間をたいして顔向けのできないものです。あなた

がたは、ベリシヨフを、兄弟党、兄弟国の指導部を転覆させ、社会主義陣営と国際共産主義運動の団結を破壊する道具に使ったのです。アルバニアの同志たちは、すでにあなたがたのこうした陰謀をあばき、ベリシヨフの問題を正しく処理しました。

もし、「他の兄弟党に反対する舞台裏での分派活動の真に最たるもの」をあげるなら、それはまさしくソ連共産党指導部じしんにあります。すでに、ベリシヨフ事件の五カ月まえ、つまり一九六〇年一月に、あなたがたは、ミコヤン同志を派遣してアルバニアの指導的同志たちと会見させ、中国共産党に反対する活動をたくらんだのです。一九六〇年六月二十四日のブカレスト社会主義諸国兄弟党代表者の会談で、アルバニア代表団団長カポ同志は、フルシチョフ同志の面前で、あなたがたのこうした舞台裏での分派活動の事実を指摘しました。

あなたがたはまた、書簡のなかで、「かつて威勢をほこった騎士」のように構えて、「文書を公表する」とか、「自分の観点をおおやけにする」とかいつています。そして一九六三年九月二十一日には、わたしたちにたいして「もつともだんこたる反撃」をくわえるときえ宣言しました。実際、あなたがたの用いたこの種のトリックがまだ足りないともいうのですか。あなたがたのもらしたことがらまだ少ないともいうのですか。もし数えあげるなら、わたしたちは、ソ連共産党第二十回大会いらいの諸事実のなかから、それをどつきりあげることができます。こ

れは、あなたがた自身がよく知っているはずで、わたしたちが余計な筆をふるうにはおよばないでしょう。いま、あなたがたは、またもやこうした空砲をうっています。正直にいつて、それは神経衰弱患者しかおどかすことができません。わたしたちから見れば、あなたがたの空威張りはすべて、ただのハリコの虎にすぎず、銀メッキをした錫の槍のほ先にすぎないのです。あなたがたの玉手箱のなかにある一切の宝器、「もつともだんこたる反撃」とか、「観点をおおやけにする」とか、中国共産党にたいする「集団的措置」とか、あれこれの文書や資料とかを、すっかり公開して、わたしたちの見聞を広めてくれたらよいと、わたしたちは考えます。

もしも、あなたがたが真理をおそれず、大衆をおそれず、ソ連共産党員とソ連人民を無能のやからと見ずして、かれらは政治的自覚があり、是非を見わかる能力があると信ずるなら、わたしたちは、両党がつぎの協定をむすぶことを提案します。それは、双方が各自の新聞・雑誌に、相手かたが自分たちを批判した文書、論文、資料と、自分たちが相手かたを批判した文書、論文、資料を、すでに公表したのも、こんご公表するものも、対等に掲載することです。

あなたがたは、わたしたちがあやまちを犯したといっています。それは、わたしたちがあなたがたに、二月十二日の書簡をおくるよう「請求」したのではなく、「要求」したのだというのです。中国語では、この二つのことばの慣用法は、あなたがたがいつているほどの大きな区別はあ

りません。しかし、あなたがたがこのことをこんなにも重大視し、そのうえ、中国共産党に反対するあなたがたの二月十二日の書簡をわたしたちに渡せない一つの理由としている以上、それならよろしい！ わたしたちはあなたがたの意思にしたがつて、あなたがたが二月十二日に他の兄弟党に送った書簡をわたしたちにもおろつてくれるようあなたがたに請求します。なにとぞお願いします。

兄弟のあいさつをおくります！

一九六四年二月二十七日

中国共産党中央委員会

中国共産党中央委員会が一九六四年二月二十九日

ソ連共産党中央委員会にあてた書簡

ソ連共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

中国共産党中央委員会はあなたがたにこの書簡を送って、ソ連共産党中央委員会の一九六三年十一月二十九日づけの書簡に回答します。

中国共産党はゆらい、国際共産主義運動の団結をまもり、強めることを自己の神聖な義務としてきました。

各国の共産主義者の連合はクラブ式の連合ではなく、共同の理論を指針とし、共同の理想のためにたたかう革命的な連合です。国際共産主義運動の団結の基礎となりうるのは、マルクスとレーニンの革命的学説だけです。この基礎をはなれては、プロレタリア国際主義の団結などまったくありえません。

わたしたちとソ連共産党指導部との意見の相違は、マルクス・レーニン主義の理論と国際共産

主義運動ぜんたいの一連の重大な原則的問題にかかわるものです。わたしたちのあいだの意見の相違をとりのぞき、中ソ両党の団結をつよめるには、この一連の原則的問題を解決しなければなりません。

わたしたちが一九六三年六月十四日にソ連共産党中央委員会にあてた返書、つまり、国際共産主義運動の総路線についての提案、およびわたしたちがその後発表した国際共産主義運動にかんする論文でのべている観点は、マルクス・レーニン主義にまったく合致し、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則にまったく合致するものであります。

この書簡では、あなたがたの書簡で提起されているいくつかの問題について、わたしたちの意見のべてみたいと考えます。

第一、中ソ境界問題について

中華人民共和国政府は一貫して、歴史上のこされてきた中ソ両国の境界問題は両国政府の話合いによって解決することができる、それが解決されるまでは境界の現状を維持すべきである、と考えています。ここ十数年らい、わたしたちはずっとそうしてきました。もしも、ソ連政府も

同様な態度をとっていたなら、双方はもともと境界において睦まじくやっていき、平穩をたもつことができたはずで。

ところが、ソ連共産党指導部の反中国活動がはびこるにつれて、近年、ソ連側はたえず境界の現状をふみにじり、中国の領土にまで進出してこれを占領し、境界事件をひきおこしました。さらに重大なのは、ソ連側がなんらばかるところなく中国の辺境地帯で大規模な転覆活動をおこない、新聞・雑誌や放送を通じて公然と中国各民族の団結を離間し、中国の少数民族を祖国から分裂させようと扇動し、数万にのぼる中国の公民を誘惑あるいは脅迫してソ連へつれさつたことです。これらはすべて、社会主義国の相互関係についての準則をふみにじったばかりでなく、一般の国家間の関係からいっても絶対に許しえないことです。

こんにち、中国の隣国で、故意に中国との境界紛争をつくりだしているのは、ソ連共産党指導部とインドの反動的な民族主義者だけです。中国政府はソ連以外のすべての兄弟的な社会主義隣国とはもちろん、インド以外の民族主義諸国、たとえば、ビルマ、ネパール、パキスタン、アフガニスタンなどの隣国とのあいだでも、歴史上のこされてきた複雑な境界問題を円満に解決しました。

わたしたち両国政府の代表団は、一九六四年二月二十五日北京で境界問題についての交渉をは

なすすべての措置をとって、公然たる論戦やその他国際共産主義運動の団結をそこない、社会主義諸国の団結をそこなう行動を停止するようよびかけます。わたしたちは、世界の発展にかなする原則的な問題について意見の交換を完全に停止しようと提案しているではありません。わたしたちは単に、こうした意見の交換が、一九六〇年の兄弟党の声明に規定されている形式、つまり相互の話し合いや会談、書簡のやりとりをつうじておこなわれることを望んでいるにすぎません。

ソ連共産党中央委員会がこれらの提案をする出発点は、これらの提案が信頼を深めるのに役立ち、各国共産党・労働者党国際会議の準備に有利な条件をつくるのに役だつというところにあります。さいきん、ソ連共産党と中国共産党も他の多くの兄弟党と同じ様に、一再ならずこのような会議の開催を主張しています。いま、わたしたちは、自分のこうした立場をかきねて表明します。同時に、わたしたちは、すべての党の義務は、このような会議が効果をあげうるような局面の形成をうながして、それが世界共産主義運動の分裂をもたらすのではなく、すべての兄弟党、すべての平和勢力と社会主義勢力の真の統一と団結をもたらすようにすることであると、くりかえし強調したいと思えます。

これが、すでに生じた困難をのりきるためにとることのできる具体的措置についてのわたしたちの若干の考えです。

同様な態度をとっていたならば、双方はもともと境界において睦まじくやっつけていき、平穩をたもつことができたはずですが。

ところが、ソ連共産党指導部の反中国活動がはびこるにつれて、近年、ソ連側はたえず境界の現状をふみにじり、中国の領土にまで進出してこれを占領し、境界事件をひきおこしました。さらに重大なのは、ソ連側がなんらばかるところなく中国の辺境地帯で大規模な転覆活動をおこない、新聞・雑誌や放送を通じて公然と中国各民族の団結を離間し、中国の少数民族を祖国から分裂させようと扇動し、数万にのぼる中国の公民を誘惑あるいは脅迫してソ連へつれさつたことです。これらはすべて、社会主義國の相互關係についての準則をふみにじったばかりでなく、一般の國家間の關係からいっても絶対に許しえないことです。

こんにち、中国の隣國で、故意に中国との境界紛争をつくりだしているのは、ソ連共産党指導部とインドの反動的な民族主義者だけです。中国政府はソ連以外のすべての兄弟的な社会主義隣國とはもちろん、インド以外の民族主義諸國、たとえば、ビルマ、ネパール、パキスタン、アフガニスタンなどの隣國とのあいだでも、歴史上のこされてきた複雑な境界問題を円満に解決しました。

わたしたち兩國政府の代表団は、一九六四年二月二十五日北京で境界問題についての交渉をは

じめました。歴史上調印された中国とロシアの境界にかんする条約は不平等条約ですが、それにもかかわらず、中国政府はやはりこれらの条約を尊重し、これを基礎として中ソ境界問題を合理的に解決したいと考えています。中国政府はプロレタリア国際主義と社会主義國の相互關係についての準則にもとづき、平等な話し合いと相互諒解、相互護歩の精神にもとづいて、ソ連政府と友好的な交渉をすすめるつもりです。もしソ連側も中国政府と同様な態度をとるなら、中ソ境界問題の解決は困難であるはずがなく、中ソ境界はほんとうにいつまでも友好的な境界になりうる、と、わたしたちは確信しています。

第二、援助問題について

わたしたちはゆらい、ソ連がスターリンの指導していたころからはじめた友好的援助にたいして、しかるべき評価をあたえています。わたしたちはゆらい、ソ連人民の友好的援助は中国が社会主義的工業化のいちおうの基礎をうちたてるうえで有益な役割をはたした、と考えています。この点について、中国共産党と中国人民はいくども感謝の意をあらわしました。

近年、ソ連共産党指導部はいつも恩人づらをし、いくどもくりかえして「無私の援助」などと

ふいちょうしています。さいきん、ことし二月の中ソ友好同盟相互援助条約十四周年記念にあたって、あなたがたの『ブラウダ』紙、『イズベスチャ』紙その他の宣伝機関はまたもや、この問題についてさかんにふいちょうしました。わたしたちはいまだに新聞紙上で公然と系統的にあなたがたに回答してはしません。わたしたちが指摘しないわけにいかないのは、中国にたいするソ連の援助が一方的なものではなく、ましてや無償のものではなかったということ、それはおもに貿易の形でおこなわれたものだ、ということ。ソ連がわが国に提供したすべてのプラントと物資（借款の形で提供された設備や物資をふくむ）については、利息もろともに、わたしたちはこれを物資や、黄金、国際通貨で償還しています。また、わたしたちがソ連から輸入する商品の多くはその価格が国際市場のそれよりはるかに高いことも指摘しておかなければなりません。

中国がソ連側から援助をえたばかりではなく、ソ連も中国側からそれ相応の援助をえています。ソ連にたいする中国の援助がとるにたりない徹々たるものであるとは、だれもそう考えることができません。

たとえば、一九六二年末までに、わたしたちは二億新ルーブルにあたいする穀物、食用油その他の食料品をソ連に供給しました。そのうち重要なものとしては、大豆五七六万トン、米二九四万トン、食用植物油一〇九万トン、肉類九〇万トンなどがあります。

同じ時期に、わたしたちは一四億新ルーブルにあたいする鉱産物と金属をソ連に供給しました。そのうち重要なものとしては、リチウム鉱石（精鉱）一〇万トン、ベリリウム鉱石（精鉱）三万四〇〇〇トン、硼砂五万一〇〇〇トン、タンゲステン鉱石（精鉱）二七万トン、圧電気石英三二・九トン、水銀七七三〇トン、タンタルム・ニオブウム鉱石（精鉱）三九トン、モリブデン鉱石（精鉱）三万七〇〇〇トン、スズ一八万トンなどがあります。これらの鉱産物の多くは、先端科学の開発、ロケットと核兵器の製造になくてはならない原料なのです。

ソ連の対中国借款についていえば、そのうち最大の部分は、わが国がソ連から軍需物資を購入するために使ったものであることを指摘しておかなければなりません。これら軍需物資の大部分は、抗米援朝戦争に使い、消耗しました。朝鮮人民は抗米戦争で負担がもつとも重く、損失ももつとも大きかったのですが、この闘争のなかで、中国人民も大きな犠牲をはらい、巨額の軍事費を支出しました。中国共産党はゆらい、これは中国人民の当然はたすべき国際主義的義務であり、ふいちょうにあたいするようなものは何もないと、考えています。長年らい、わたしたちは毎年ソ連のこれらの借款にたいして元金と利息を返済しており、それはわが国のソ連向け輸出のなかで相当の比重を占めています。いいかえれば、抗米援朝戦争のさい、中国に提供された軍需物資でさえ、無償の援助ではなかったのであります。

第三、ソ連専門家の問題について

中国で仕事をてつだっていたソ連の専門家は、つねに中国政府と中国人民から歓迎され、尊重され、信頼されてきました。圧倒的多数のソ連専門家は積極的に仕事にはげみ、わが国の社会主義建設事業にとつて助けとなりました。わたしたちはかれらの勤勉な労働を一貫して高く評価しています。わたしたちはいまもおかれらのことをなつかしく思っています。

あなたがたはつぎのことを記憶しているはずですが、中国で仕事をしていたすべてのソ連専門家の召還をソ連共産党指導部が一方的に決定したのち、わたしたちは、ソ連の専門家に中国にとどまってひきつづき仕事をしてもらいたいと思つていて、ソ連共産党指導部が自分の決定を考へなおし、あらためるように希望していることを、丁重に表明したのです。

だが、あなたがたはわたしたちの反対をおしきり、国際関係の準則にそむいて、わずか一カ月という短期間に、中国で仕事をてつだっていた一三九〇名のソ連専門家を強引に引きあげさせ、三四三にのぼる専門家派遣契約と契約補充書を破棄し、二五七におよぶ科学、技術協力項目を廃止したのです。

あなたがたもはつきり知っているとおり、ソ連の専門家はわが国の経済、国防、文化・教育、科学研究など各部門の二五〇余の企業体と事業体に配置されており、技術設計、工事の施工、設備のすえつけ、製品の試作、科学研究など各分野で重要な任務をこなしていました。あなたがたに強制されて、それらのソ連の専門家が自分の仕事を中断してソ連に引きあげたため、わが国の重要な設計項目と科学研究項目の多くは中止を余儀なくされ、施工中のいちぶの建設項目は工事の停止を余儀なくされ、試験生産をしていたいちぶの工場、鋳山は、期限どおりに生産をはじめることができなくなりました。あなたがたのこうした背信行為は、わが国の国民経済のものとの計画をぶちこわし、中国の社会主義建設事業に大きな損失をもたらしました。

中国がきびしい自然災害をこうむったとき、あなたがたは人の窮地につけこんで、このようなゆゆしい措置をとり、共産主義の道徳にまったくそむいたのです。

あなたがたの行為があますところなく物語っているように、あなたがたは社会主義国の相互援助についての原則をふみにじり、専門家の派遣を、兄弟国に政治的圧力をくわえ、その内政に干渉し、その社会主義建設を制限、破壊するための道具としているのです。

いま、あなたがたはまたしても中国に専門家を派遣する問題をもち出しています。率直にいつて、中国人民はあなたがたを信用できません。中国人民はいま、あなたがたが専門家をひきあげ

たためにうけた傷あとをいやしたばかりです。そのことについての記憶はいまなおなまましいのです。ソ連共産党指導部が反中国政策をとっている状況のもとで、わたしたちはあなたがたの手にのりたくはありません。

社会主義陣営諸国は真に平等、内政の相互不干渉、相互援助、国際主義の諸原則にもとづいて、専門家派遣の問題を処理すべきである、とわたしたちはそう考えています。専門家の派遣にかんするすべての協定と契約を、一方的に破棄したり、ふみにじったりすることは絶対に許されません。もし違反したばあいには、国際慣行にもとづいて相手側の損失を賠償しなければなりません。こうしてこそはじめて、中ソ両国、社会主義陣営諸国は、平等、互恵の原則に立って、互いに専門家を派遣することができます。

ついでにもう一言のべておきましょう。わたしたちは社会主義陣営諸国の相互援助という国際主義の原則に立って、ソ連のいまの経済状況にひじょうな関心をよせています。もしも、中国が専門家を派遣していくつかの分野であなたがたに助力する必要がある、とあなたがたが考えるなら、わたしたちは喜んでそうするつもりです。

第四、中ソ貿易の問題について

ここ数年らい、中ソ貿易の額が減った真の原因は、あなたがたがもつともよく知っているはずですが。これは、あなたがたがイデオロギーの面での相違を国家関係の面にまで拡大した結果にはかなりません。

あなたがたは中国で仕事をてつだっていたすべてのソ連専門家を突然ひきあげさせ、わが国の多くの工場、鉱山、事業体の建設過程と生産計画をかきみだし、わが国のプラント輸入の需要に直接の影響をあたえています。わたしたちはたずねたいのです。こうした状況のもとで、むりやりにこれらのものを買わせて、それを陳列品にでもさせるつもりなのか、と。

ましてや、あなたがたは一九六〇年から、経済・貿易面で、いちだんと中国にたいする制限と差別の政策を実施し、両国の経済・貿易会談で、わざといやがらせをし、中国の必要とする重要物資の供給を引きのぼしたり、拒否したりしてきました。わたしたちに不必要な物資や、あまり必要でない物資となると、あなたがたはたくさん提供してくれず。だが、わたしたちのひじょうに必要な物資となると、あなたがたはそれをおさえてあたえないか、あるいはほんの少ししか

提供してくれません。ここ数年らい、あなたがたはまた、両国の貿易関係を、中国に政治的圧力をくわえる道具として利用しています。こうしたことが両国の貿易額にひびかないでいることがどうしてできるでしょうか。

一九五九年から一九六一年にかけて、わが国は三年連続のとくに大きな自然災害をうけたため、以前のように大量の農産物とその加工品をあなたがたに提供することができなくなりました。これは不可抗力の要因によるものです。あなたがたはこうした事態につけてこんで攻撃をくわえ、わが国が貿易額をへらしたと非難していますが、これはまったく筋のとおらない話です。

正直にいつて、もしも中国側が努力しなかったら、中ソ貿易の額はもっと大幅な減少をみたことでしょう。ことしについていつても、中国側はすでに、ソ連から二億二〇〇〇万新ルーブルの商品を輸入し、ソ連に四億二〇〇〇万新ルーブルの商品を輸出するというリストを提出しました。だが、あなたがたは終始筋のとおらないひきのぼしの態度をとり、一方ではわたしたちの必要とする商品をおさえてあたえず、他方ではわたしたちの必要としない商品をおしつけようとしています。あなたがたは書簡のなかで、「ソ連はこんご数年のうちに、中国にたいしてあなたがたが関心をもつ商品の輸出をふやすことができる」といつていますが、あなたがたの言行は一致していません。

あなたがたはつねづね、わたしたちが「ひとり仕事」をしていると攻撃する一方、あなたがた自身は、社会主義諸国の広はんな経済的連係と国際的分業を主張していると吹聴しています。だが、あなたがたはこの面でいつたいどのような実行動をとつているのでしょうか。

あなたがたは兄弟国の独立と主権をおかし、兄弟国が自国の必要と能力に応じ、自主独立の基礎のうえに立つて自国の経済を發展させることに反対しています。

あなたがたは経済のわりに立ちおくれた兄弟国を侮辱し、これらの国々にの工業化に反対し、これらの国ぐにをいつまでも農業国の地位にとどまらせて、あなたがたの原料供給地、商品販売市場にしようとつとめています。

あなたがたは工業のわりに発達した兄弟国を侮辱し、これらの国ぐにに伝統的な製品の生産をむりやり止めさせ、これらの国ぐにをむりやりあなたがたのいくつかの工業部門に奉仕する付属工場に変えようとしています。

あなたがたはまた、資本主義世界の弱肉強食の原則を社会主義国の相互関係に持ちこんでいます。あなたがたは独占資本グループの「共同市場」を公然としぶんの手本にしています。

あなたがたのこうしたやり方はすべて、まちがっています。

わたしたちは、中ソ両国、すべての社会主義国のあいだに、経済、科学・技術、文化などの面

で、真に平等、互恵の原則のうえに立つ、あたらしい型の協力関係をうちたてることを主張します。

いまの社会主義諸国経済相互援助会議はプロレタリア国際主義の原則にもとづいてこれを改造し、ソ連共産党指導部が一手ににぎっているこの組織を、社会主義陣営の兄弟国が自発的に参加する、真に平等・互恵の組織にしなければならぬ、とわたしたちは考えています。わたしたちは、あなたがたがこの意見に積極的な反応をしめすよう望んでいます。

第五、公然たる論戦停止の問題について

公然たる論戦は、もともとあなたがたがひきおこしたものです。以前、わたしたちは、国際共産主義運動の意見の相違を内輪の討論を通じて解決するよう主張しました。ところが、あなたがたはあくまでこれを公然化しようとしてきました。ソ連共産党第二十二回大会で、あなたがたは、一九六〇年の声明で規定された兄弟党の関係についての準則をふみにじり、国際共産主義運動せんたいに公然たる論戦をおしつけ、これは「レーニンの方式にしたがって事をはこぶのだ」とのべました。あなたがたは悪いことをしました。あなたがたは各国の兄弟党に困難をもたらし、帝

国主義と反動派に手をかしました。いま、公然たる大論戦はすでに全面的にくりひろげられており、真理は討論すればするほど明らかとなり、マルクス・レーニン主義は討論すればするほど発展しています。悪いことが良いことに変わりはじめています。

この大論戦のなかで、全世界の共産主義者、プロレタリアート、勤労人民、革命的知識人、そしてまた、帝国主義と各国反動派に反対することに関心をもつその他の人びとは、ますます自覚が高くなり、ますます目がさえてきました。かれらの革命的積極性は大いに高まり、かれら自身の理論水準も大いに高まりました。公然たる論戦の結果、あなたがたの当初の願いととは反対に、ますます多くの人びとが指揮棒のあやまった影響からぬけ出し、自主独立の立場で問題を考えるようになりました。このようにして、こんにちの論戦は国際共産主義運動史上のいくたびかの大論戦と同様、必然的に革命の新たな上げ潮の序幕となるのです。

あなたがたは、公然たる論戦をひきおこして、マルクス・レーニン主義の兄弟党に反対しようとしたとき、こうした公然たる論戦の立場は「真にマルクス・レーニン主義的な唯一の正しい原則的立場」であり、「世界共産主義運動せんたいに有利」であるといいました。ところが、公然たる論戦のなかでますます自分の修正主義の正体がさらけ出され、いよいよ不利な地位におかれるようになる、こんどは、公然たる論戦が「共産主義運動に大きな損害をもたらした」、公然

たる論戦の停止こそ「もつとも賢明」であり、「世界共産主義運動の団結の利益に合致する」といっています。あなたがたは時によつて、ああもいえば、こうもいう。あなたがたには、また真理とか原則性とかいうものがあるのでしょうか。あなたがたはいったい人びとにどれを信じこませ、人びとをどちらに従わせようというのでしょうか。

公然たる論戦停止の提案についていえば、あなたがたは、はやくも一九六二年一月にベトナム労働党がそれを提出したことを忘れてしまつたようです。インドネシア共産党とニュージールランド共産党も、おなじような提案を出しました。当時、わたしたちはすぐこれらの提案に応じました。ところが、あなたがたにはこうした提案も馬耳東風で、公然たる論戦を停止しなかつたばかりか、たえずこれを拡大してきました。それなのに、あなたがたがこの問題をもち出すと、他人はただちにこれをうけいれなければならぬというのはなぜでしょうか。

あなたがたはまた、わたしたちが一九六三年三月九日あなたがたに送つた書簡のなかで、公然たる論戦停止の問題については、「わたしたち両党と関係ある兄弟党が討議して、いずれの側もうけいられる公平な取り決めにむすぶ必要がある」といつたことも忘れてしまつたようです。あなたがたは始終わたしたちの提案を相手にしなかつたのです。一九六三年七月二十日、中ソ両党の会談が終わりをつげるとき、わたしたちはまた、「わたしたち両党と関係ある兄弟党が、と

もに努力して合理的な基礎をみつけどし、公然たる論戦の停止についていずれの側もうけいれる公平な取り決めにむすぶべきである」ということばを、会談コミュニケに書きいれるよう主張しました。わたしたちの提案はまたもやあなたがたに拒否されました。

あなたがたは書簡のなかで、「注意力をおたがいのあいだで意見の相違のある問題に集中するのではなく、それをひとまずさしおいて、激情の静まるのを待つことであり、時間による検証にまかせることです」とのべています。あなたがたは、わたしたちがすでに一九六〇年十月十日、二六の兄弟党の文書起草委員会でおこなつた書面による発言のなかで、「当分のあいだ一致できない問題はそのままにしておく方が強引に解決するよりもましである……時間はおたがいに力をつけて、意見の相違をのぞいてくれるだろう」とのべたことをも忘れてしまつたようです。わたしたちのこの意見は、当時、あなたがたからきつぱりと拒否されました。あなたがたは一九六〇年の各国兄弟党会議のさいにばらまいた、中国共産党中央委員会にあてた十一月五日づけの書簡のなかで、「もしも、われわれが『歴史の判決』を待つなら、……われわれは共産主義運動せんたいにたいしてさんたんたる結果をもたらす重大な誤りをおかすことになるだろう」といいました。いま、あなたがたはこの問題について百八十度の大転換をおこない、とつぜん、意見の相違にはふれないでおこうなどと、いいだしたのです。いったいあなたがたの下心はどこにあるので

しょうか。正直に言えば、あなたがたは中国共産党その他のマルクス・レーニン主義政党をさんざん罵倒したあげく、このような方法でわたしたちから回答の権利をうばいとろうとしているにほかなりません。

中ソ両党がモスクワ会談をおこなっていた最中、あなたがたはわたしたちの再三再四の忠告もかえりみず、アメリカ帝国主義のごきげんをとるため、かれらと核兵器独占の協定をむすび、一九六三年七月十四日には、あろうことかソ連の各級党組織と全共産黨員にあてた公開書簡を発表しました。あなたがたはかつてみない大規模な反中国キャンペーンをおこなしました。いちおうの統計によれば、ソ連の新聞・雑誌は一九六三年七月十五日から十月末までに、二〇〇〇にちかい反中国の論文や資料を発表しました。

これと同時に、チェコスロバキア共産党、ブルガリア共産党、ドイツ社会主義統一党、ハンガリー社会主義労働者党、モンゴル人民革命党など社会主義国兄弟党の指導者も、あなたがたの影響をうけて大量の反中国論文や資料を発表しました。

あなたがたは書簡のなかで、「意見の相違と先鋭な論戦は共産主義運動に重大な損害をもたらした」とのべています。もしもほんとうにそうであるなら、わたしたちはたずねたいのです。あなたがたは、自分を責めるべきであり、反省すべきであるとは思わないのでしょうか。中国共産

党その他のマルクス・レーニン主義政党にたいして是が非でもこれほど大規模な中傷と攻撃を何回もくわえようとするのはどうしてでしょうか、と。

あなたがたはまた書簡のなかで、他の兄弟党の困難を考慮しなければならぬとのべています。他の兄弟党のいろいろな困難にたいしては、わたしたちもかねてから十分に関心をよせています。わたしたちがたびたびソ連共産党指導部に論争を公然化しないようにすすめたのも、他の兄弟党の困難を考慮したからにはかなりません。しかし、多くの資本主義国の共産党、労働者党、たとえばフランス、イタリア、ベルギー、スペイン、オランダ、スイス、デンマーク、フィンランド、スウェーデン、オーストリア、西ドイツ、ギリシャ、ポルトガル、イギリス、アメリカ、カナダ、チリ、ブラジル、アルゼンチン、メキシコ、ペルー、コロンビア、パラグアイ、ウルグアイ、オーストラリア、セイロン、シリア、レバノン、イラク、トルコ、イラン、ヨルダン、アルジェリアなどの党の指導部とインド・プロレタリアートの裏切りものダンゲ一味らは、ソ連共産党指導部に追従して、中国共産党その他のマルクス・レーニン主義政党を攻撃する多くの論文を発表しました。なかには、決議を採択し、公然たる声明や黨員へのアピールを発表し、さらにはじぶんの党内でマルクス・レーニン主義の立場を堅持している同志にたいして、あらゆる手段で攻撃したり除名したりしている党もあります。かれらはこのようなことをやっているとき、

自分になにか困難があると考えたことがあるでしょうか。あなたがたはかれらを支持して、このようなことをさせているとき、かれらになにか困難があると考えたことがあるでしょうか。

これらの兄弟党がわたしたちを攻撃した論文や資料はおびただしい数にのぼっていますが、それにもかかわらず、わたしたちはしじゅう自製の態度をつづけてきました。わたしたちは、フランス共産党、イタリア共産党、アメリカ共産党のいづれの攻撃に回答したほか、その他のものにはすべて回答していません。わたしたちはただ回答の権利を留保しているだけです。わたしたちはけつしてこれらの党を乱してはいません。それなのに、どうしてこれらの党に困難をもたらすことがありえましょうか。これらの党にもし困難があるとしたら、それはかれら自身が引きおこしたものです。

あなたがたの一九六三年十一月二十九日づけの書簡がおくられてきてからも、あなたがたもあなたがたの追従者の反中国宣伝は、しじゅう停止されていません。あなたがたの『プラウダ』紙の「なぜ人をまどわそうとするのか」、「ソ中条約十四年」、「イズベスチャ」紙の「重要文書」、「ザ・ルベージュ」誌の「世界一周」などの論文や資料は、いづれもわたしたちを名ざして攻撃しました。さいきん、あなたがたはまた、『政治問題講話』、『われわれレーニン主義の政党』、『大気圏を……浄化する条約』、『党のレーニン主義学説と現代共産主義運動につい

て』、『資本主義の全般的危機と対外政策』などの反中国書籍を出版し、全面的、集中的に中国共産党を攻撃しました。あなたがたはまた、自国の外国駐在大使館、国際大衆団体における自国の代表を利用して、中国を攻撃するパンフレットを配布しました。この期間に、あなたがたの追従者が発表した論文や資料については、わたしたちはここで多くを語ろうとは思いません。

一九六三年十一月二十九日以後も、あなたがたは世界平和評議会のワルシャワ会議、世界労連執行委員会のプラハ会議、国際民婦連執行局のベルリン会議、国際学連執行委員会のブダペスト会議その他一連の国際会議で先鋭な論争問題を持ちだし、論争をひきおこしました。これらの会議で、わたしたちが他国の代表とともに、積極的に世界人民の平和のための闘争を促進し、民族解放運動を支持し、アメリカ帝国主義反対の統一戦線を結成しようと呼びかけていたとき、逆に、あなたがたは、アメリカと連合して中国に反対する三国条約を支持する決議を強引に採択させようとし、アメリカ帝国主義をほめたたえ、分裂をつくりだしました。

これらはすべて、あなたがたのいつていることやつてることがまったく相反していることを十分に証明しています。あなたがたがわめきたてている公然たる論戦の停止はまったくのウソであり、欺瞞なのです。

あなたがたは、あれほどたくさん反中国論文や資料を発表しましたが、わたしたちはいまま

でに、あなたがたの公開書簡にたいする回答の論文を七つ発表したにすぎません。あなたがたが公開書簡で提起したいくつかの重要問題にたいし、わたしたちはまだ答えおわってはいないし、あなたがたがその他の反中国論文のなかで提起した問題にたいしては、まだ答えていません。わたしたちの論文はすべて、事実をあげ、道理をといたものです。どうして「社会主義共同体の各国民の友情と団結をゆさぶり」、「反帝戦線を弱めている」などといえるのでしょうか。あなたがたのいつているこれらの言葉で、あなたがたのあの大量の、道理を無視した、デマと中傷をこととするしろものを形容した方が、まったくびつたりしているではありませんか。

あなたがたはありとあらゆるあくどい言葉をつかつて、中国共産党を攻撃し、わたしたちに盛りだくさんのレッテルをはりつけました。いうところの「教条主義」、「極左冒険主義」、「「えせ革命」、「新しく顔をだしたトロツキズム」、「民族主義」、「人種主義」、「大国排外主義」、「セクト主義」、「分裂主義」、「帝国主義反動勢力の仲間入りをする」、「戦争狂」、「アメリカの『気違い』と西ドイツの報復主義者とフランスの極端分子の隊列のなかで右翼の役割を演ずる」など、要するにあなたがたの口にかかる、中国共産党はまぎれもない、百パーセントの、世界でもっとも反動的な勢力となるのです。それでは、おたがねしたい。百パーセントのマルクス・レーニン主義者、善人と自称するあなたがたが、あなたがたの考えているような、

敵よりにくい悪人と団結を語ることがどうしてできるだろうか。あなたがたはいつたい、結末をどうつけるつもりなのか。あなたがたはみずから名のりですて、おおやけに声明を発表し、中国共産党にたいするいままでの攻撃がすべてデマであり、中傷であるとみとめ、あなたがたが中国共産党にはりつけたレッテルをすっかりはがしとるつもりなのか。それとも、わたしたちにあなたがたの判決文を承認させ、マルクス・レーニン主義の革命の旗じるしを放棄させ、あなたがたの修正主義路線に屈服させるつもりなのか、と。

事態は、すでにこのうえもなくはつきりしています。わたしたちとあなたがたの意見の相違は、一連の重大な原則問題についての相違であり、マルクス・レーニン主義の基本的原理が必要であるか、どうかの問題であり、宣言と声明の革命的原理が必要であるか、どうかの問題であります。たとえば――

アメリカ帝国主義はいつたい、全世界人民のもっとも凶悪な敵なのか、それとも良識のある平和の使者なのか。アメリカ帝国主義は人類の運命を決定する主宰者なのか。

帝国主義のひきおこす世界大戦を防ぎ、世界の平和をまもる確実な道はなにか。

いつたい世界の平和をまもるためには、また革命の利益のためには、世界各国の労働者、農民、革命的知識人、民族ブルジョアジーのなかの反帝・反封建の革命派および団結できるすべて

の勢力を団結させ、アメリカ帝国主義とその手先に反対するもつとも広はんな統一戦線を結成して、共同闘争をおこなうべきなのか、それとも一切の希望を米ソ協力に託すべきなのか。

インド反動派が社会主義中国を攻撃したとき、プロレタリア国際主義の原則にしたがつてインド反動派の挑発を非難すべきか、それともインド反動派に兵器をあたえて、かれらがソ連人民の兄弟と戦うのを援助すべきか。

チトー一味はいつたい裏切りものなのか、それとも同志なのか。かれらは、いつたいアメリカ帝国主義の別動隊なのか、どうか。ユーゴスラビアは、はたして社会主義国なのか、どうか。

いつたい社会主義陣営は、必要なのか、どうか。いつたいどんな原則にもとづいて社会主義陣営の団結を強めるのか。

すべての被抑圧人民と被抑圧民族の解放のための革命闘争と階級闘争にたいして、いつたい積極的な支持をあたえるのか、それともかれらに革命をゆるさず、かれらの革命に反対するのか。

いつたいスターリンは、偉大なマルクス・レーニン主義者なのか、それとも人殺し、強盗、やぐさ者なのか。

いつたい社会主義国は、プロレタリアート独裁を堅持すべきか、それとも全人民の国家とか、全人民の党とかによって、資本主義の復活に道をひらくべきか。

——などの問題であります。

これらの問題は、絶対にあいまいしておくことのできないものであり、かならずはつきりさせなければなりません。こんなに大きな問題をどうしていいかげんにごまかすことができるでしょうか。もしも、それをいいかげんにごまかしたら、マルクス・レーニン主義は修正主義、教条主義と区別がなくなり、マルクス・レーニン主義はトロツキズムと区別がなくなり、共産党は社会民主党と区別がなくなり、共産主義は資本主義と区別がなくなってしまう。

いま、あなたがたはしきりに、「もつともだんこたる反撃」をもちだして人をおどかしつけています。しかし、実のところ、人びとはすでに、あなたがたの用いるさまざまなトリック、強くだたり、やわらかくでたり、苦い目にあわせたり、甘い汁をすわせたりするトリックをすべて知りつくしています。アルバニアにたいして軍事的、経済的、政治的圧力を加え、国交を断絶し、協定を破棄し、貿易関係を断絶したのは、あなたがたです。中国にたいして、契約をふみにじり、専門家を引きあげ、援助を断ち、転覆活動をおこなったのも、あなたがたです。中国共産党とマルクス・レーニン主義を堅持するすべての政党は、甘口になるようなこともなければ、どんな圧力に屈することもなく、原則を取りひきの道具にすることもありません。あなたがたがもし、文字どおりの「もつともだんこたる反撃」を加える、「観点をおおやけにする」、「文書や

資料を公表する」、「集团的措置」をとる、あるいはそれ以外のかをやる、とかいうようなことを本当に準備し終わつたなら、あなたがたのやりたいことを勝手におやりなさい。

意見の相違がすでにこんにちのように重大な段階にまで発展したとはいえ、中国共産党はやはり、団結の回復と強化のために全力をつくしたいと望んでいます。あなたがたは昨年十一月二十九日づけの書簡のなかで、公然たる論戦停止という空念仏をとなえただけで、問題を解決するどのような具体的措置をも提起していません。いま、わたしたちはあなたがたに問題を解決する具体的措置について、つぎのような提案をだします。よく考慮したうえ、回答していただきたい。

一、公然たる論戦を停止するには、かならず中ソ両党とその他関係ある兄弟党による各種の、両党間またはいくつかの党の間の会談をおこない、話し合いを通じて、いずれの側にもうけいれられる公平で合理的な方法を見つけたし、共同の取り決めを結ばなければなりません。

二、中国共産党は世界各国共産党、労働者党代表者会議の開催を一貫して主張し、また積極的に支持してきました。この会議をひらくまえに準備をととのえ、

困難や障害を克服しなければなりません。わたしたちは、この会議がマルクス・レーニン主義の革命的原則の基礎のうえに立つ団結の大会となるよう、他の兄弟党とともにあらゆる努力をつくしたいと思えます。

三、中ソ両党会談の再開は、兄弟党会議を成功させるのに必要な準備の段取りです。わたしたちは、一九六四年十月十日から二十五日まで北京で中ソ両党会談を再開することを提案します。

四、わたしたちは、各国兄弟党代表者会議のためにより十分な準備をととのえるよう、中ソ会談に、アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ベトナム、ドイツ民主共和国、中国、朝鮮、キューバ、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、ソ連、チェコスロバキアおよびインドネシア、日本、イタリア、フランスの一七カ国の兄弟党代表者会議をひらくことを提案します。

マルクス・レーニン主義の旗じるしのもとに団結しましょう！

一九六四年二月二十九日

中国共産党中央委員会

ソ連共産党中央委員会が一九六三年十一月二十九日

中国共産党中央委員会にあてた書簡

中国共産党中央委員会

毛沢東同志

親愛なる同志のみなさん

さいきん共産党の新聞・雑誌に若干の文書が掲載されました。これらの文書のなかで、マルクス・レーニン主義政党は、展開されている論争のなかで提起された国際共産主義運動の根本問題について、それぞれの立場を公然と明らかにしました。これらの文書から、共産主義運動のなかに重大な意見の相違が存在し、モスクワ会議の宣言と声明の基本的論点にたいして異った理解と解釈があることがわかります。わたしたちは、多くの兄弟党と同様、その立場のいかに問わず、つぎの事実には大きな憂慮を感じておくことをかくそうとは思いません。つまり、すでに生じている意見の相違がますますふかまり、論争問題の範囲がいよいよひろげられ、そのうえ、するどい公然たる論戦が、マルクス・レーニン主義者の相互関係としては許されないようなかたちを

とってきたことです。

イデオロギーの問題での意見の相違が国家間の関係にまでもちこまれ、具体的な政策面にまであらわれて、社会主義共同体の各国人民の友好と団結をゆさぶり、反帝戦線を弱めていることは、とりわけ人びとを不安にしています。これでは兄弟党の力と注意力は、社会主義建設のさしそまつた任務の解決に集中することができないし、反帝闘争に集中することもできません。

共産主義運動のなかのこうした状況は、このうえもなくわたしたちの心を痛めています。わたしたちはこれまでも再三言明してきましたが、ここにかさねて言明します。中国共産党とソ連共産党のあいだの不正常な関係は共産主義者の力を分散させており、こうした不正常な関係は、ただわれわれの敵を利するだけであり、かれらはあらゆる術策をもちいて、こうした矛盾を利用して、現存する困難につけてこんで反共の目的をとげようとやっきになっている、と。

もちろん、世界で二つのもつとも大きな国を指導しているソ連共産党と中国共産党のような党は、たとえ論戦が続けられている状況のもとでも、活動をおこなうことができます。たとえこうした状況のもとでも、わたしたち両党にとつては、あなたがたがチエルボネンコ・ソ連大使に語つたとおり、天はくずれおちず、草木はあい変わらずおい茂り、女たちはあい変わらず赤ん坊を生み、魚はあい変わらず水中をおよいでいるでしょう。これにはわたしたちも同感です。

しかし、わたしたちは、意見の相違とするどい論戦が共産主義運動に大きな損害をもたらしていることに目をむけないわけにはいきません。またわたしたちには、きわめて困難かつ複雑な条件のもとで反帝闘争をすすめるなければならない共産主義運動の隊列に考慮をはらわなくてもよい、という権利はありません。これらの党は、ソ連共産党と友好をたもつことも必要であり、中国共産党と友好をたもつことも必要であると、公正に認めています。すべてのマルクス・レーニン主義政党は、共産主義運動の統一と団結のなから力をくみとり、困難をのりきつているので

す。あらゆる国の共産主義者は行動の一致を要求しています。かれらは正しいのです。なぜなら、行動が一致しなかったなら、階級の敵に対するわたしたちのたたかいは幾倍もの困難にぶつかるからです。

当面の状況のもとで、マルクス・レーニン主義者のもつとも重要で緊急な任務は、事態が思わしくない方向へ発展するのをふせぎ、事態を危険のせとぎわから正常化の方向にむかわせ、すべての兄弟党、すべての社会主義国の協力と団結を強めることでもあります。いまでは、レーニンのつぎの指示が、いつにもまして現実的なものとなっています。個々の党がみな、おたがいの共同の事業にたいして負っている自己の崇高な責任を認識すべきであり、共産主義運動の根本的利益

を第一義的なものとする用意を十分にととのえるべきなのです。

ソ連共産党は確固として、モスクワ会議の宣言と声明に具現されている世界共産主義運動のレーニン主義的方针にしたがひ、自己の任務は最善を尽くして団結を強めることにあり、と一貫して考えてきました。

もちろん、世界共産主義運動のなかで生じた困難を一掃するには、すべてのマルクス・レーニン主義政党が大きな努力をばらわねばならないことを、わたしたちは理解しています。この書簡でわたしたちは、わたしたち両党がこうした任務の解決に寄与できると思われることについて、わたしたちの考えをのべてみたいと思います。

わたしたちはいままでと同様、重大な意見の相違が存在しているとはいへ、ソ連共産党と中国共産党のあいだおよびわたしたち両国のあいだの関係の改善については、いまでも客観的な基礎があると考えます。それは、わたしたち両国人民が共通した根本的利益をもち、社会主義と共産主義をめざすたかい、革命的労働運動と民族解放運動にたいする支持、平和をめざし、帝国主義の侵略の陰謀に反対するたかいのなかで共同の任務をもっているということです。

意見の相違が存在している問題のはかに、おたがいの観点がまったく一致しているか、すくなくともひじょうに接近している点もあることに目をむけないわけにはいきません。つぎのいくつ

かの根本問題にたいするおたがいの立場には、客観的な共通点があります。たとえば、階級闘争の問題、帝国主義に反対し、労働者階級と全勤労人民の勝利をかちとる問題、プロレタリアート独裁の問題がそれであります。プロレタリアート独裁の樹立は、ソ連その他の社会主義国の経験があきらかにしているように、プロレタリア革命が勝利をかちとつたのち、社会主義建設事業に反抗する勢力をうちくたかくためのものであります。これら諸問題の解釈で、わたしたちとあなたとがたがまったく同じであるというわけではありませんが、もし、平静に、偏見をたずに当面の論争点を明らかにし、非固有的な、偶然的なものをすべてとりはらうならば、おたがいが多くの面で協力しあう広はんな可能性を保持できるばかりでなく、それを発展させ、強化することもできることを、見いだすであろうと、わたしたちは確信しています。

ソ連共産党と中国共産党およびその他の兄弟党が、論争問題にたいするそれぞれの観点を明らかにした現在、正しいやり方は注意力をおたがいのあいだで意見の相違のある問題に集中するのではなく、それらをひとまずしおいて、激情の静まるのを待つことであり、時間による検証にまかせることです。わたしたちは、生活そのものがマルクス・レーニン主義路線の正しさを明らかにするであろうと確信しています。同時に、有利な条件のある分野でおたがいの協力を発展させることもできると思ひます。こうした協力は、ソ連と中国ばかりでなく、社会主義共同体のす

べての國ぐにの人民にとつても有利なものです。

具体的にいいますと、意見の相違が存在しているにもかかわらず、わたしたちはつぎにのべる点をおたがいの関係の中心にすえることを提案します。つまり、ソ中兩國とすべての社会主義國ならびにマルクス・レーニン主義兄弟黨のあいだの友宜を深めるために協力を發展させることと、平和擁護、帝国主義反対の共同の目的達成のために各種の國際団体のなかでの行動を調整すること、であります。経済、科学・技術の協力と文化の面には、中ソ兩國間の連けいを強めるとりわけ大きな可能性が存在しています。この書簡のなかで、わたしたちはいくつかの実際的な提案をしたいと思ひます。これらの提案の実現は、わたしたち兩國間の友宜を強めるのに役だつでしょう。

ソ連共産党中央委員会は、中国共産党中央委員会もこの面で若干の具体的措置をとるよう期待しています。とりわけ、つぎの点にかんがみ、こう期待するのです。新聞、雑誌の伝えるところによりますと、中華人民共和国國務院總理周恩来同志は、さいきん外國の活動家やジャーナリスト代表との談話のなかで、中国はソ連その他の社会主義國との連けいを強める意向があること、中国が貿易その他の経済的な連けいの増進に大きな関心をもっていること、中華人民共和国が平和共存の五原則に忠実であることを表明しました。中華人民共和国總理はまた、中国側は、帝国

主義が現存する意見の相違につけてこんで社会主義共同体の団結を破壊しようとする、そのたくらみを防ぐであろうとのべています。このような見方は、ソ連共産党中央委員会ならびにソ連政府の度々の声明に合致したものです。

双方がともに関心をもっているのですから、つぎの結論をひきだすことができますでしょう。それは、いまだだちにソ中協力の調整をはかる具体的な段取りについて語るることができるということです。

たとえば、近いうちに中ソ間の合意による一応のバーター計画を作成することに手をつけてもよいわけです。ソ連は今後数年内に、あなたがたが関心をもつ商品の中国むけ輸出を増加してもよいし、またわたしたち兩國の経済にとつて関心をよびおこす商品の中国からの輸入を増加することもできます。

周知のように、わたしたち兩國政府が調印した一九六二年五月十三日の議定書の規定によれば、来年には中華人民共和国にプラントを提供することについての話し合いを再開することになっています。これらのプラントの製造は、中国側の要請によつて二年間も延期されています。もしあなたがたが関心をもっているならば、わたしたちは、工業企業の建設の面で中華人民共和国にたいする技術援助を拡大することについて話し合うこともできます。たとえば、わたしたち兩

国のどちらにも有利であるという条件のもとで、石油工業の発展、鉱石採掘工業ならびにその他の部門の企業の建設を援助する可能性について討議することもできます。

わたしたちは、もしあなたがたが必要とみとめるならば、中華人民共和国へソ連の専門家を派遣する用意がある、とかさねて表明します。

いま、ソ連は一九六六年から一九七〇年にいたる五カ年計画を作成中です。中国も第三次五カ年計画を作成中です。したがって、現在わたしたち両国間の貿易関係その他の連けいを発展させる可能性について話し合い、そのために両国の国民経済計画のなかでそれ相応の措置を規定することは、時宜に適したことです。もちろん、ソ中両国の協力を強化するというこの好ましいことは、いつはじめても、おそいということはありませんが、いま手をつけた方がもつとも好ましいものと思います。

わたしたち両国が科学・技術協力や多方面にわたる文化的連けいを拡大することによって利益をうることは、疑う余地がありません。わたしたちは、これらの問題はソ中両国の関係部門がたがい協議し、話し合う対象となることができると考えます。これらの提案を試みる時、わたしたちはもとよりソ中両国の経済、科学・技術、文化その他の面での協力の拡大についてのあなたがたの意見を、すべて真剣に検討する用意があります。もちろん、わたしたちも、あなたがた

がこれは中国に有利だとみとめた場合に、はじめて連けいや協力を発展させることができるということに気づいています。わたしたちの側としては、これは中国、ソ連のどちらにとつても、有利であると確信しています。

周知のように、経済的連けいは各国人民がとりわけ関心をもつ協力の一種です。ひいては社会制度の異なる国家間の関係にたいしても、経済的な連けいは大きな意義をもっています。このような連けいは、平和共存の原則の実現に有利な条件をつくりだし、国家間の関係の改善をうながすものです。社会制度が同じで、目標が一致していることによつてむすばれている社会主義諸国は、なおさら広はんな経済的連けいを必要としています。こうした連けいは、社会主義と共産主義を建設するための重要な要因であり、社会主義的国際分業の優越性を利用するうえでの重要な要因であり、それは兄弟的人民のあいだの友宜を深めるのに役だし、資本主義との経済競争で新たな成果をあげるのに役だし、すべての革命的反帝勢力を結集するのに役だつものです。こうした協力を発展させることは、中国にとつても、ソ連にとつても、有利であり、また社会主義陣営全体と世界社会主義事業にとつても有利です。

もちろん、わたしたちは、いずれの国の人民も社会主義と共産主義を建設するには、なによりもまず自分の力にたよるべきだということを知っています。なぜなら、その国の人民自身をのぞ

いて、他のいかなる人もその国で社会主義を建設することがありえないからです。しかし、社会主義国の協力が個々の国の人民の社会主義建設に役だち、それをはやめることができるのは同様に明らかです。わたしたち両国間の経済協力を回復し、強化することは、ソ中両国の国民経済と社会主義体制全体の経済の発展をはやめるのに役だつばかりでなく、他の分野での関係を正常化するのにも有利な条件をつくりだすでしょう。

ソ中両国の協力の発展にとつて、きわめて有利な前提があります。わたしたち両国は、種々さまざまな自然資源をもっており、経済と科学・技術の協力の面でも多くの経験を積んでいます。ソ中経済協力が中華人民共和国の社会主義建設の過程やソ連経済の発展にどれだけよい影響をもたらしたかは、周知のとおりです。それゆえ、ソ連と中華人民共和国の経済協力と貿易がここ数年らしい、発展しなかつたばかりか、かえつてますます縮小したことは、まことに残念なことです。

貿易、経済その他の連けいの発展が、相互関係のふんい気を改善し、わたしたち両国の関係にかかわるその他の問題の解決に役だつことは、いままでの経験があまりかにしています。たいへん残念なことには、こうした問題は存在しているし、その解決をはかる必要があります。

ここ数年らしい、ソ中国境の若干の区域で見られる情勢は、正常なものと見なしえないことは、

あなたがたも多分同意するでしょう。ソ連政府はすでに、若干の区域の境界線を査定することについて友好的話し合いをおこなうよう提案しました。また、そうすることによって、当面の誤解をひきおこした原因をとりのぞくことができると考えています。さいきん、あなたがたも、相互の話し合いにもとづいて、この問題を解決しようと表明しています。したがって、わたしたちは、あなたがたに關係文書を發送するつもりでいます。

ちかごろ、中国ではツァー政府の侵略政策と中国におしつけられた不平等条約についての若干の言論があらわれています。もちろん、わたしたちは、隣接国との国境を専断的に画定したロシアのツァーを弁護はしません。わたしたちはまた、あなたがたとしても武力で少なからぬ他国領土を侵略、占領した中国の皇帝を弁護するつもりはないと信じています。しかし、わたしたちが、当時ロシアおよび中国で権力をにぎっていた搾取階級上層部の反動的行為を非難する際に、国と国とのあいだに歴史的に形成された境界が現に存在していることを念頭におかないわけにはいきません。この点を無視するいかなる企図もすべて、誤解と衝突の源となる可能性があります。また問題を解決することにもなりません。いまだでは、労働者階級が権力をにぎっており、しかも、われわれの共同の目標は共産主義です。それは国境線のもつていた従来の意味をだんだんと失わせるでしょう。こういう時に、人為的に領土問題をひきおこすことは、まったく良識を欠

いたことです。われわれは国境線上のいかなる摩擦をもすつかりとりのぞき、二つの社会主義國の眞の友好關係の根本を各国人民にしめすあらゆる可能性があるのです。

わたしたちはまた、党と党のあいだの關係を改善するのに有利な条件をつくりだし、共産主義運動のなかでおこつた困難をいつそう重大化する恐れのあることがらいつさいを回避しなければなりません。共産主義運動における意見の相違を克服することは複雑なことであり、大きな努力と時間を要するものであることを、わたしたちははつきりと知っています。しかし、大切なことは、こうした面で一步一步前進し、原則的なマルクス主義を基礎とする世界共産主義運動の團結の強化にたいして、レーニンのような思いやりをしめし、團結を破壊する恐れのあるいかなる行動をも許さず、分派分子と分裂主義者に反撃をくわえることです。

わたしたちからみれば、当面の複雑な状況のもとでさえも、すでに拡大された論争を抑制できない程度にまで發展させずに、中国共産党とソ連共産党およびすべての兄弟党の統一と團結を強化する方向へ事態をはこんでいく可能性があります。ソ連共産党中央委員会は、すでに一度ならず公然たる論戦の停止を主張してきました。一九六三年十月二十五日と十一月七日にわたしたちは、かさねてこれを提案しました。ソ連の新聞、雑誌はすでに、論争の性格をもつた資料の掲載を停止しています。この書簡のなかで、わたしたちはもういちど中国共産党中央委員会に、必要

なすすべての措置をとつて、公然たる論戦やその他國際共産主義運動の團結をそこない、社会主義諸國の團結をそこなう行動を停止するようよびかけます。わたしたちは、世界の發展にかんする原則的な問題について意見の交換を完全に停止しようとして提案しているではありません。わたしたちは単に、こうした意見の交換が、一九六〇年の兄弟党の声明に規定されている形式、つまり相互の話し合いや会談、書簡のやりとりをつうじておこなわれることを望んでいるにすぎません。

ソ連共産党中央委員会がこれらの提案をする出発点は、これらの提案が信頼を深めるのに役立ち、各国共産党・労働者党國際會議の準備に有利な条件をつくるのに役だつというところにあります。さいきん、ソ連共産党と中国共産党も他の多くの兄弟党と同じ様に、一再ならずこのような會議の開催を主張しています。いま、わたしたちは、自分のこうした立場をかさねて表明します。同時に、わたしたちは、すべての党の義務は、このような會議が効果をあげうるような局面の形成をうながして、それが世界共産主義運動の分裂をもたらすのではなく、すべての兄弟党、すべての平和勢力と社会主義勢力の眞の統一と團結をもたらすようにすることであると、くりかえし強調したいと思ひます。

これが、すでに生じた困難をのりきるためにとることのできる具体的措置についてのわたしたちの若干の考えです。

わたしたちの書簡は、あくまでも団結の強化をはかるといふ配慮でもってつらぬかれています。この点、わたしたちを正しく理解するようお願いします。あれこれのイデオロギーの問題についての理解、また、社会の発展中にあらわれる個々の現象の評価についておたがいのあいだに意見の相違があつてもかまいません。生活はあやまちをおかした人びとを正すでしょう。しかし、どんな場合でも、共産主義者の崇高な義務——社会主義共同体の団結、資本に反対する全戦線の団結——を一刻も忘れてはなりません。各国の人民は共産主義者を信頼しています。われわれはかれらの信頼にそむいてはなりません。おたがいに力をあわせて、協力強化のために道をはきよめるとともに、この面で具体的措置をとろうではありませんか。

ソ連共産党、ソ連人民は、中国人民、中国共産党にたいして友好的感情をもち、社会主義と共産主義をめざすたたかひのなかでむすばれた兄弟的友情を深めるのを願っています。ソ連共産党中央委員会は、事態を好転させ、世界共産主義運動の団結を強め、中ソ両国人民の友宜を深めるためにあらんかぎりの力を尽くすことを決意しています。

ソ連共産党は一貫して、世界共産主義運動の路線にしたがい、一九五七年と一九六〇年のモスクワ会議の宣言と声明の原則をだんこととして擁護しています。わたしたちのレーニンの党は、ソ連で共産主義をきざきあげるため、平和、民主、各国人民の民族の独立のため、世界社会主義共

同体と反帝革命の全戦線の強化のため、プロレタリア革命のため、国際社会主義事業のため、歴史的意義をもつたたかひをすすめています。これは各国人民の利益に合致するものです。

ソ連共産党中央委員会は、中国共産党中央委員会が社会主義という偉大な事業をかちとるたたかひのなかで、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の原則を基礎とする兄弟党の団結の強化のために、自分の方から実際的措置をとるよう呼びかけます。

一九六三年十一月二十九日

ソ連共産党中央委員会第一書記

N・フルシチョフ（署名）

ソ連共産党中央委員会が一九六四年二月二十一日

中国共産党中央委員会にあてた書簡

中国共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

ソ連共産党中央委員会は、あなたがたの一九六四年二月二十日づけの書簡をうけとりました。

あなたがたはこの書簡のなかで、ソ連共産党にたいして乱暴きわまる語調とみっともない侮辱的な手口をつかっているのです、わたしたちはこれにまったく返答しなくてもよい道義的権利があります。それにもかかわらず、わたしたちがやはりあなたがたに返答するのを妥当だと考えたのは、ただ、いかなる投機の可能性をもなくし、真相を知らない人びとを迷わせようとする企図をのぞくためであります。

ソ連共産党中央委員会がことし二月十二日に多くの兄弟党に送った書簡を中国共産党中央委員会には送らなかつたことについて、あなたがたはこれにおおげさな身ぶりで憤激し、これをまるであなたがたにこの書簡の内容をかくそうとしたものであるかのようにいい、「ソ連共産党のセ

クト主義的」「分派活動」であるかのようにいっています。

だが、事態の真相はどうなのでしょう。わたしたちがあなたがたにことし二月十二日づけの書簡を送らなかつたのは、けつして偶然ではありません。さいきん数カ月間だけでも、ソ連共産党中央委員会は、一再ならず中国共産党指導部に口頭または書面で、社会主義共同体と国際共産主義運動の団結を強めるため共同の措置をとることを提案しました。中国共産党中央委員会はわたしたちの提案に回答する必要がないとさえ考えています。一九六三年七月モスクワでおこなわれた会談で、ソ連共産党代表団が提出した、共産主義運動の情勢を正常化することについての提案を、あなたがたはまったく相手にしませんでした。あなたがたは、ソ連共産党中央委員会の一九六三年十一月二十九日づけの書簡にも回答していません。この書簡のなかには、当面の意見の相違をとりのぞく具体的な行動綱領がふくまれていました。ソ連共産党指導者はまた、鄧小平、彭真、劉暉、潘自力の諸同志をつうじて、中国共産党指導部になんども口頭およびかけをおこないましたが、やはり回答はえられませんでした。

もし、あなたがたに上述の文書と資料を読む気持ちがあれば、これらの文書と資料のなかで語られている問題はほかでもなく、ソ連共産党中央委員会が、ことしの二月十二日に兄弟党にあてた書簡のなかで簡潔にのべておいた問題であることを、容易に確信することができますでしょう。

あなたがたはわたしたちの書簡に回答しないでいながら、ソ連共産党と他のマルクス・レーニン主義政党に反対する大規模なキャンペーンをくりひろげ、国際共産主義運動と民主団体のなかで分裂主義的分派活動を急激に強めています。『人民日報』はことしの二月四日づけ論文のなかで、共産主義運動の分裂を公然と呼びかけ、中国共産党指導部はソ連共産党中央委員会の一九六三年十一月二十九日づけの書簡にふくまれた積極的な提案に回答する気がないことを表明しました。

このような状況のもとで、ソ連共産党中央委員会は、共産主義運動の団結の利益のため、また、中国の新聞、雑誌から中傷、攻撃された自己のマルクス・レーニン主義的立場を明らかにすることを願って、中央委員会二月総会でこの問題を審査し、そのうち自己の観点をなおやけにする必要があると考えました。ソ連共産党中央委員会はこのことを兄弟党に通知することを決定しました。

わたしたちの提案が中国共産党の指導者からいかなる積極的反応もえられなかったこと、中国共産党の指導者が世界共産主義運動の共同の方針にたいする攻撃をひきつづき強め、分裂活動を拡大していること——当時、わたしたちが兄弟党にむかって率直にこのことを話さねばならなかったのは当然です。わたしたちは、真に宣言と声明の立場に立つすべての兄弟党の意見、つま

り、分裂主義者に反撃をくわえ、集団的な措置をとって、マルクス・レーニン主義の原則にもとづく共産主義運動の団結を強めなければならないという意見に賛成であると声明しました。わたしたちは、共産党・労働者党の会議を開くのが適当であると、もういちど表明しました。この点は、あなたがたも以前たびたび表明したことです。

わたしたちの書簡は、中国共産党指導部が自分の指導のもとに、特殊の綱領をもつ分派プロックをつくろうとしていることを非難しました。

これがつまり、ソ連共産党中央委員会二月十二日づけの書簡でのべられている問題です。

二月十二日づけの書簡でふれたすべての問題にたいするわたしたちの原則的な立場については、わたしたちが兄弟党によびかけたずっと前から、あなたがたはよく知っていました。兄弟党にこの書簡をおくる以前に、わたしたちは、共産主義運動の団結を強める問題について中国共産党中央委員会と討議しようとして一再ならず試みました。こうした試みは一度も成功しませんでした。これはけっしてわたしたちのあやまちではありません。あなたがたがわたしたちのたびたびの書簡と呼びかけに頑としてこたえず、これらの書簡と呼びかけをわたしたちの弱さの現われであると思っている以上、二月十二日づけの書簡をあなたがたに送ることは不必要であり、無益でさえあります。

こうしたすべてのことがすぎさつたあと、あなたがたは、あたかもソ連共産党が「中国共産党にかくれて」「中国共産党に反対する新たなキャンペーンを画策しており」、「裏表のある手くだ」をつかつて……「分裂活動をおこなっている」かのように言っています。これには、まったく驚くほかありません。中国共産党指導部がことし二月十二日づけ書簡の問題を極力誇張し、ソ連共産党中央委員会のこの措置の真の意義をねじまげているのは、またしても罪過を人になすりつける愚かなくわだてであること、つまり、もっぱら中国共産党指導部のあやまちによって生じた共産主義運動内部の困難の責任をソ連共産党になすりつけようとするものであることを見ぬくのは難しいことではありません。

それは世間でいうように、「盗人だけだけしい！」とわめくあの周知の手ぐちを使っているのにはほかなりません。

もしも、真正正銘の裏表のある人と、「兄弟党にかくれて」活動する分裂主義者をさがしだそうというのであれば、それは、なが年らい分派活動をおこなってきた人びとをいいうべきであり、共産主義運動の分裂が必要であることをおおびらに論証し、さては分裂は「合法的」であるとさえいっている人びとのところへいつてさがすべきであります。たとえば、つぎのような事実があります。すでに一九六〇年六月のころ、劉少奇同志と中国共産党のその他の指導者は、アル

バニア代表团と会談したさい、ソ連共産党を中傷し、わが党の内外政策を故意にねじまげ、アルバニアの活動家をそそのかしてソ連共産党に反対させようとしてきました。中国指導部のこうした行動は、アルバニア代表团団員のしごく当然な憤激をひきおこしました。かれらは中国の同志に公然とこのことを表明し、ソ連共産党中央委員会にもこれを通知しました。

これこそ、舞台裏で他の兄弟党に反対する真正正銘の分派活動にはかなりません。

無数の事実をあげることができますし、もし必要なら、文書を公表して、ここ数年らい中国共産党がソ連共産党その他の兄弟党に反対するためすすめてきた舞台裏での活動をバクロすることもできます。この点については、すでにブカレスト会議とモスクワ会議で兄弟党の代表があなたがたに直接話したことがあります。

ソ連共産党についていえば、わたしたちは中国共産党をもふくむいかなる兄弟党にたいしても、自己の観点と行動をかくしてはおりません。わたしたちは中国共産党の代表にむかつて、すべての重要問題にたいするわたしたちの観点と立場を一再ならず説明してきました。

ソ連共産党中央委員会は、いかなる共産党ももっている権利、つまり、自分が関心をもつあれこれの問題について話し合いをすすめる権利を行使しました。あなたがたは二月四日づけの論文のなかで、わが党とその指導部にたいするデタラメな中傷をおこないましたが、ソ連共産党中央

委員会はこのような挑発にのらず、「まっとうから対決」してののしりあうような道はあゆみませんでした。わたしたちは、あなたがたの分裂活動に反撃する必要があると考えたので、党のルートをつうじて兄弟党の中央委員会ともういちど相談し、共産主義運動の団結強化のため、わたしたちがとうとうとしている措置を知ってもらうことに決定したのです。これは、モスクワ会議の宣言と声明に規定されているマルクス・レーニン主義政党の相互関係についての原則と準則にまったく合致するものです。

ソ連共産党中央委員会が二月十二日兄弟党に送った書簡は、いま共産主義運動のなかにうみ出されている不正常的状況をなくそうとするわが党の深い配慮から出たものです。これは、すべてのマルクス・レーニン主義政党の根本的利益を反映し、マルクス・レーニン主義の純潔をまもる利益を反映しています。

あなたがたが「大國主義の悪風」、「唯我独尊」、「横暴無法」、「おやじ党の悪風」、「神のおぼしめし」といった言葉をもてあそぶ意図については、わたしたちはあなたがたにいわなければなりません。このようないい方をするのは、あなたがたの立場の弱さを証明するだけである、それは、あなたがたがわたしたちにおしつけようとするあなたがたじしんの行動をこのような方法でおおいかくそうとしていることを証明するだけである、と。

ここ四年らい、全世界の兄弟党はすべて、中国共産党中央委員会が共同の利益の角度から物事に対処し、自己のまちがった「総路線」を全世界の共産主義運動におしつけようとする企図を放棄するよう呼びかけてきました。けれども、中国共産党指導部は、兄弟党の意見に耳をかたむけないばかりか、ますます大きな野望をいだくようになり、自分じしんがマルクス・レーニン主義の創始者の唯一の継承者であるかのようにふるまい、共産主義の理論と実践における最高の裁判官であるかのようにふるまっています。ほかでもなく中国共産党指導部こそ、資本主義諸国の共産党がいつ革命をはじめ、どの道を経て革命を実現すべきかを指図しようとしているのです。ほかでもなく中国共産党指導部こそ、どの国が社会主義国で、どの国がそうでないかの終審判決をくだしているのです。ほかでもなく中国共産党指導部こそ、多くの党に「正しい」とか、「正しくない」とかのレッテルをはり、じぶんの好き嫌いに応じて、ある人は「すぐれたマルクス主義者」と呼び、他の人は「現代修正主義者」呼ばわりをするのです。

あなたがたの大國主義的悪風は、あなたがたのごく最近のあまり長くない書簡にもあらわれています。あなたがたはこの書簡のなかで、ソ連共産党中央委員会に、二月十二日づけの書簡をあなたがたに送るよう要求しました。請求したのではなく、要求したのです。わたしたちはたずねたいのです。一体、これはどんな権利にもとづいているのか、と。あなたがたの語調をまじめに

聞き、それにおどされ、すぐ走りよってあなたがたのどんな要求をも実行するものがあるとしても思っているのか。これはたんに乱暴であるばかりでなく、端的にいつて滑けいできえありません。

あなたがたの書簡と、この書簡のなかでわざと使っている乱暴な語調は、この書簡をおくった目的がどこにあるかを、わたしたちにいまいちど考えさせるものです。このような不体裁な書簡を送ったのは、あなたがたが自国の人民と国際共産主義運動をだますため、たえまなく語りかけているように、ソ連共産党との友宜を強化するためのものであるとは、誰も信じはしないでしよう。この書簡を読んだものは誰でも、この書簡が意見の相違を深め、共産主義運動の情勢を激化させることを目的としたものであることを知ることができます。

中国共産党の指導者は、もし共産主義運動の一致団結に真に関心をよせているのであれば、自己のまちがった道をして、分裂活動をやめ、世界のすべての兄弟党と同じ隊列に立つべきであります。

ソ連共産党中央委員会は永遠に、原則的なマルクス・レーニン主義にもとづく世界共産主義運動の団結のため、できるかぎりの措置をとる用意があります。

わが党は、世界共産主義運動の団結の利益をすべてをしのぐ地位におき、中国共産党との関係の正常化のためひきつづき努力する用意があることを表明します。

世界共産主義運動は現存する困難を克服し、自己の隊列をマルクス、エンゲルス、レーニンの旗のもとにいっそうしっかりと団結させ、労働者階級の偉大な事業と民族解放運動の勝利をかちとり、平和と各国人民の安全をかちとり、共産主義の勝利をかちとる闘争のなかで、新たな成果をおさめていくでしょう。ソ連共産党中央委員会はそのことをかたく信じています。

熱烈な兄弟のあいさつをおくりします。

一九六四年二月二十二日

ソ連共産党中央委員会

ソ連共産党中央委員会が一九六四年三月七日

中国共産党中央委員会にあてた書簡

中国共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

ソ連共産党中央委員会は、あなたがたの一九六四年二月二十七日づけの書簡を受け取りました。わたしたちはこの書簡を詳細に検討しました。率直にいえは、あなたがたのこの書簡はわたしたちをすつかり驚かせました。この書簡のなかで、あなたがたはまたもや気前よくも、「分裂主義者」とか、「分派分子」とか、「セクト主義者」とかいったたぐいの用語をつかい、これによつて、わが党が中国共産党に反対する舞台裏での活動をすすめているなどと非難しようとたくらんでいます。

さいきん、あなたがたは、意見の相違の発生と闘争の激化のあやまちを、ソ連共産党になすりつけるたくらみをますます日常化しています。これらすべてのたくらみの意図は、わたしたちにはまったくはつきりしています。つまり、あなたがたは責任を他人になすりつけて、自分の行為

を弁解し、意見の相違を激化させようとしているのです。

わたしたちはすでにもちあがつている事態にたいしていかなる責任もおわないことを、なんら心に恥じることなく声明することができます。ソ連共産党その他のマルクス・レーニン主義党は、モスクワ会議の宣言と声明の原則の基礎のうえにたつて中国共産党との意見の相違を克服するため、過去、現在をつうじて全力をかたむけてきました。ソ連共産党中央委員会のあなたがたの党にたいする態度はゆらい、意見の相違を深めないというこの配慮から出ているのです。最初わたしたちは、数年前におこつた意見の相違を偶然のものと考えていました。中国の同志がわたしたちの背後で活動し、闘争を激化させる路線をとっていることについて得た情報を、わたしたちは信じようとしませんでした。わたしたちは、おたがいの関係をもつとも兄弟的で、もつとも信頼のできるものにしようと、終始全力をつくしてきました。

ソ連共産党中央委員会は、ソ連共産党と中国共産党、ソ連と中華人民共和国のあいだの友宜のもつ意義、そして両党、両国の関係が、マルクス・レーニン主義の学説の基礎のうえにたてられるべきことを十分に理解しています。わたしたちは再三にわたつてあなたがたに書簡を送り、ソ連駐在中華人民共和国大使劉曉同志が一九六二年十月モスクワを離れるさいに、わたしたちが表明したように、わたしたちはソ連共産党と中国共産党との友宜が一九五八年以前のように良好な

ものとなるよう心から期待しているとかえし表明しました。これはわたしたちのもっとも熱烈な願いであります。しかしまことに遺憾なことに、いま、わたしたちが目にはしているのは、こうした希望が実現されていません。

中国共産党中央委員会の二月二十七日づけの書簡の中心点は、実際には、公然たる論戦強化の提案です。双方とも相互批判の資料を発表することについて協定をむすぶというあなたがたの提案は、実際には両党の論戦にわたしたち兩國の人民をもまきこもうとするものであります。

同志のみなさん、あなたがたは理解しなければなりません。もしもあなたがたの論文——あんなに多くの不公正な論断、ソ連の内外政策にたいするあんなに多くの中傷を含み、はてはソ連では「資本主義の復活」がおこつたと言ひ張り、ソ連はすでに「アメリカ帝国主義とグル」になっているとまでいっている論文を発表すれば、ソ連人のしかるべき憤慨をひきおこすだけであるということ。当然のことながら、ソ連の新聞・雑誌はこれらの攻撃にたいして回答しないわけにはいきません。そうすることは、ソ中兩國の偉大な人民の友宜を強化する道にそつて前進するのではなく、その不和、不信、非友好をおおる道にそつて進むことになるでしょう。

というのは、あなたがたのすすめている論戦は早くからイデオロギー論争の範囲をこえ、あなたがたによつてソ連共産党に反対し、国際共産主義運動せんにたいに反対する闘争の道具にかえら

れてしまったからです。あなたがたはわが党とわが国をほいままに侮辱しています。實質的には、あなたがたは人民と党をひきはなし、党と指導部をひきはなそうとする、あのソビエト国家の敵がとつている、戦術をとつています。このような行動は許されないものです。こうした行動につながるもくろみは、まったく幼稚なものです。トロツキスト、右翼日和見主義者、民族主義者とのたたかいのゆたかな経験を持ち、国外の敵とのたたかいの経験をもつソ連共産党に、あなたがたは攻撃をくわえています。このことは、ソ連の共産主義者と全ソ連人民を、自己の戦闘的な共産主義的前衛のまわりにいつそうかたく団結させるだけであります。

わたしたちは党にたいして、あなたがたの破壊活動の真相を語るばあい、いつも自制をたもち、平静な語調をもち、兄弟的な中国共産党とその指導者および中国人民にたいして、いかなる侮辱も許しませんでした。いま、かりにわたしたちもあなたがあたの道をたどつて、あなたがたがわたしたちを罵倒したその言葉であなたがたに答え、中国人民に立ちあがつて自己の指導者に反対せよと呼びかけるなら、その結果はどうなるでしょうか、あなたがたにひとつこの点を考えてみていただきたいのです。もしもわたしたちがこの道をたどるなら、わたしたちはいったいどんな共産党員、どんな共産党の指導者となるでしょうか、また、共産主義社会建設のためにたたかうことを任務とするマルクス・レーニン主義学説のどんな信徒となるでしょうか。共産主義と

は、民族間の敵視をあおりたてるのではなくて、それとは反対に、民族、皮膚の色、言語のいかにかわりなく、かれらを兄弟的な一つの家庭に結集して、搾取者に反対し、帝国主義に反対するため妥協のない闘争をすすめることであります。

ソ連共産党中央委員会はほかでもなくこうした考慮から、一九六三年十一月二十九日づけの書簡のなかで、ふたたび公然たる論戦の停止を提案し、ソ中関係の改善と共産主義運動の情勢の正常化をはかる建設的な綱領を提案したのです。同時に、ソ連の新聞・雑誌でも、論戦的な資料の発表が停止されました。すべての兄弟党はこれらの行動をソ連共産党の善意のあらわれとみなし、中国共産党がわたしたちの提唱を支持するよう期待していました。

遺憾にたえないのは、中国共産党中央委員会がこれとは正反対の手をつかっていることです。あなたがたは意識的にわたしたちの書簡にたいする正式の回答をひきのばしていますが、その実、論戦の激化、共産主義運動における分裂活動の激化、ソ連共産党その他のマルクス・レーニン主義政党にたいするますますさかんな誹謗によって、わたしたちの書簡に回答したのです。このキャンペーンは、『人民日報』、『紅旗』誌の一九六四年二月四日づけの論文でその頂点にたつしました。この論文では、ソ連はアメリカ帝国主義とともに、人民中国の「主要な敵」とされています。その論文には、わが党とその中央委員会にたいする許しがたい誹謗がふくまれています。

す。二月四日づけの論文は、分裂活動のためにある種の理論的基礎をつくりあげようとたくらみ、共産主義運動の分裂を合法的な現象であるといっています。この恥ずべき文書も、他の類似的資料とおなじく大量にバラまかれ、ロシア語その他の言語で全世界に放送されました。

こうした状況のもとでは、わたしたちもはや黙っているわけにはゆきません。わたしたちは、ソ連共産党中央委員会総会がすでにおこった事態を討議し、判断し、十分に重みのある言葉を語りうるように、中国指導部の言葉と実際の行為について、真相のすべてを語らねばなりません。党の積極分子六〇〇〇名が参加したソ連共産党中央委員会二月総会は、ソ連共産党が共産主義運動の団結をかちとるためにすすめている闘争の諸問題について討議したあと、一致して中央委員会幹部会の路線に賛意を表しました。

共産主義運動のなかでの相互関係の原則に完全にたもたせて、ソ連共産党中央委員会は、わたしたちが新聞・雑誌に総会の関係資料を発表し、中国共産党指導部の分裂行動を反撃する用意のあることを兄弟党に通知する義務があると考えました。

わたしたちが他の兄弟党にあてた書簡をあなたがたに送ることはなんの意味もないということには十分に理解できることです。これは無益なことです。それというのも、わたしたちは一再ならずこれらの問題についてあなたがたに書簡をしたためましたが、なんの回答もえていないからで

す。ソ連共産党中央委員会の二月十二日づけの書簡には、いかなる秘密もありません。この書簡を出すまえに、わたしたちが中国共産党指導部に話さなかつたようなことは、なにひとつここには書いてありません。ところが、あなたがたはこの書簡につけこんで、ソ連共産党が「舞台裏での」「反中国」活動をすすめたことを非難する口実にしようとしているのです。わたしたちは、なによりもまずたずねたい。どの共産党も、自分が書簡をだす必要があると思う相手に書簡をだす権利がないとでもいうのだろうか。中国共産党中央委員会に文通の状況を報告せよとわたしたちが要求しているともいうのだろうか。

だが、問題はこればかりではありません。わたしたちがあなたにたいておいたように、こうした非難、とりわけ、ここ数年らい舞台裏で兄弟党反対の転覆活動を本当にすすめてきた人のこのような非難は、まったく馬鹿げたことです。中国共産党中央委員会がマルクス・レーニン主義政党とその指導者の背後で、反党分裂グループの結成を画策し、かれらを結集して、世界共産主義運動と対立させようとしていること、このことを説明する例はたくさんあげることができません。

現実感をうしなつた中国共産党中央委員会は、わたしたちに最後通ちようを出せようと試み、ソ連共産党中央委員会二月十二日づけの書簡を送るよう要求しました。そして、わたしたちが礼

儀正しく、どの共産党も、自分が最後通ちよう式のような要求の言葉をつかつて、いま一つの党と話すことは許されるべきでない」と説明すると、あなたがたはこともあろうに、このことの意味をばかして、中国語では「請求」という言葉と「要求」という言葉のあいだには、あまり語義の違いがないように思われるといいました。

わたしたちは、中国語をもっと高く評価しています。中国人は古い文化をもつ偉大な人民であり、「請求」と「要求」とのあいだに微妙な違いがあることはひじようにはつきりと知っています。ときには、おなじ歌詞でも、まったくちがつた曲をかきあげようようなことさえあります。ついでに一言つけくわえておくと、もし「請求」という言葉をつかおうとすれば、中国語のなかにもこの言葉をさがしあてることができたのではないのでしょうか。最後通ちよう式のような言葉は、こんごお互いの関係のなから永久に一掃したいものです。

だが、兄弟党ともあろうものにならして、どうしてこのような態度をとる必要がありますか。あなたがたは二月二十七日づけの書簡やそれ以前のそれぞれの書簡で、まことにぞんざいな出まかせの語調をつかつており、書簡全体が罵倒と侮辱の言葉でみちあふれています。それはいつたいどうしてでしょうか。わたしたちを憤激させて、原則的なイデオロギーの立場と共産主義的立場から離れさせ、「井戸端でののしりあわ」せようとするのではないのでしょうか。見うける

ところ、あなたがたの意図はほかでもなくここにありようです。

あなたがたは政治的資本をかすめとるため、これまで平等を主張する「ナイト」のペールをまといながら、ソ連共産党がどこまでも「おやじの党」になろうとしているかのように、他人を信じこませようとしています。あなたがたがこうしたやりかたをとっているのは、自分じしんを「おやじの党」の地位につかせるためにほかならない——わたしたちはそういう印象をうけないわけにいかないのです。だが、時代は変わりました。スターリンが生きていたころ、かれがこうした立場をとつたにもかかわらず、この種の役柄はすでに時代おくれのものとなっていたのです。かれはわが党の内部において、また兄弟党にたいして権力を乱用し、独自の見解をもつ人びとを滅したため、人びとの信頼をうしない、自己の威信をおとしました。みうけるところ、戦時中と戦後には、スターリン自身も、意のままに各国の党を指揮することができないことを感じていたようです。これはコミンテルンが解散された原因の一つでもあります。

スターリンの死で、わが党はまじめにマルクス・レーニン主義的な態度で、これらすべてを分析し、つくり出された局面をあらためるために措置をこうじました。ソ連共産党中央委員会はみづから進んでスターリンのあやまちをあらため、兄弟党や兄弟国との平等関係というレーニン主義の原則を回復しました。わたしたちは、以前わたしたちの軍隊の駐留していた国から（旅順か

らも）、自国の軍隊を撤退させました。わたしたちは、中国その他の国での合営の経済会社を解散し、他の一連の措置をこうじました。かつて中国共産党中央委員会はわが党のこうした措置に全面的な賛意を表し、これを高く評価していました。この点について、注意を喚起しておくのも、よけいなことではあるまいと思います。

わたしたちはいまなおこうした立場に立っています。いまでは、情勢は、たとえば一九一九年のそれとおなじではありません。現在、レーニンはずでになく、そのうえ、いま生きているものは、誰もレーニンに取って代わることができません。ただマルクス・レーニン主義の党だけが、共産主義運動の共同の路線を制定することができます。「おやじの党」や「むすこの党」はありませんし、また、ありえません。ただ集団的な知恵をもつ平等な兄弟党の家庭だけがあり、また、あらねばならないのです。他人の意見を無視して、自分の観点を人におしつけ、これらの観点に同意しないものにレットルをはりつけるようなこと、こうしたくわだては、いついかなるときでも効果がありません。だからこそ、わたしたちはこんにちもなお、あなたがたが自分の立場をいくども考えなおし、こうした立場があなたがたをどこへみちびいてゆくかをよく考えてみるよう呼びかけるのです。だからこそ、あなたがたがたえまなくソ連共産党その他のマルクス・レーニン主義政党政を攻撃しているにもかかわらず、わたしたちは過去、現在をとわず忍耐をしめ

して、状況の正常化と国際共産主義運動の団結強化のため、あらゆる努力を傾けたいと思つてい
るのです。

ソ連共産党中央委員会は一再ならずつぎの観点を表明しました。労働者階級と革命運動の利益
のため、世界社会主義事業のためには、共産党のあいだの公然たる論戦を停止するのが一番よ
い、と。わたしたちは、いずれの分野でも宣言と声明の原則から出発して、兄弟党の会談や、兄
弟党の国際会議で論争問題を討議しようではないか——わたしたちはもういちどこれを提案しま
す。論争が分裂をもたらさず、もつとも神聖なものであるマルクス・レーニン主義の学説、社会
主義事業に損害をもたらさないようにするためには、討議のさいに、手かげんが必要であり、尊
厳を失つてはならず、自分の行動の全責任をわきまえておらねばなりません。

わたしたちにはV・I・レーニンの遺訓を忘れる権利がありません。レーニンは、共産主義者
の不和は帝国主義者に役だつ、とさとしています。「討論のあるところには論争があり、論争の
あるところには反目があり、反目のあるところでは共産主義者をよわめることになる。そこで好
機をとらえて、かれらのよわまった時機に乗じて押せ！これはわれわれと敵対する世界のスロ
ーガンとなった。われわれはこのことを一瞬も忘れてはならない」(レーニン全集、第三二巻)

もしあなたがたが本当に、共産主義者の国際的隊列の団結の強化に関心をもっているなら、あ

なたがたは前からわたしたちの提案を受けいれ、理知の声に耳をかたむけ、圧倒的多数のマルク
ス・レーニン主義政党的意見を考慮すべきだったのです。あなたがたがますます頑強に、しいて
論争を激化させようとし、分裂活動をすすめればすすめるほど、共産主義者とすべての進歩勢力
は、ますます多くの根拠をもつて、中国共産党中央委員会の遵守しているのは、けつして社会主
義の利益ではなく、あやまって理解された民族的利益、実質的には民族主義の利己的利益なので
ある、と確信するでしょう。

もともとわたしたちは、中国共産党中央委員会の二月二十七日づけの書簡のなかでほいまま
に書きたてられているソ連共産党にたいする中傷や非難を、逐条的に反ばくすることができると
です。しかし、わたしたちは、いまそうすることが必要であるとは考えません。あなたがたは真
剣に問題の実質を検討しようと願わず、逆に山ほどの中傷をつぎつぎとわたしたちの党に浴びせ
ているだけです。これでは、わたしたちが論拠をあげたからといって何の役に立つでしょうか。

わたしたちはいかなる挑発にもりません。わたしたちは、一つの家庭にいる全世界の共産主
義者とともに、レーニンの道にそつて前進するでしょう。ソ連共産党中央委員会は、中国共産党
が早晩この家庭と団結する正しい道をさがしあててくだらうと信じていると、もういちど表明しま
す。こうした状況の出現は、早ければ早いほどよいのです。ソ連共産党はこんども変わるることな

く、すべての兄弟党がマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の原則のうえで、世界共産主義運動の綱領的文書——宣言と声明の基礎のうえで団結するようたまたかうでしよう。

わたしたちはまた、あなたがたの二月二十九日づけの書簡をうけとりました。わたしたちの一九六三年十一月二十九日づけの書簡にたいするこの出しおくれた返書のなかから、ソ中関係を根本的に改善し、ソ連と中華人民共和国両国人民の友好と協力を強化し、世界共産主義運動の隊列を団結させることを主旨とするわたしたちのあらゆる提案を、あなたがたが拒否したことをはっきり目にしました。書簡の全精神は、つぎのことを表明しています。中国共産党中央委員会があせっているのは、わたしたち両国、両党の關係の改善ではなくて、ソ連共産党とソ連にたいしてさまざまの非難をデッチあげることである、と。わたしたちは、ソ連共産党とソ連にたいするあらゆる中傷的な攻撃にだんこ反ばくします。

ソ連共産党中央委員会はあなたがたの書簡にたいして回答をあたえ、あなたがたがわが党の思想的、政治的観点およびその實際活動の真の意義をねじまげていることを説明し、真相を復旧させるでしよう。

しかし、この書簡のなかで、わたしたちは共産主義運動せんたいが不安をいだいている問題、つまり、意見の相違を克服して、兄弟党の団結を実現させる道にかんする問題について、自分の

立場を明らかにする必要があると考えます。

わたしたちは、中国共産党中央委員会が数カ月にわたるひきのばしたなあげを経たのちに、ソ中両党代表者の両党会談を再開し、そのあとですべての共産党と労働者党の会議を準備し、招集しなければならぬというわたしたちの意見に同意したことを、確認しました。

ソ連共産党中央委員会はこの事実を肯定的に評価するとともに、自己の国際主義的義務が、予定されている会談と討議の過程で全力をつくして、共産主義運動の統一の強化をうながし、マルクス・レーニン主義の立場にたつ兄弟党の団結をうながすことである、と考えています。

同時に、あなたがたがすでに成熟しきったこれらの措置を実行する時機をこんなに長くひきのばす動機がどこにあるかを、わたしたちはどうしても理解できません。あなたがたが論戦を激化させ、共産主義運動の隊列のなかで分派活動をおこなったことによつて共産主義運動のこうむった損失は、現在すでにひじょうにはつきりと見てとることができるようになりました。討議を必要とする問題はすでにすっかり確定しています。会談の目的もまったくはつきりしています。このほか、大多数のマルクス・レーニン主義政党がますますだんこたる態度で国際会議を招集しなければならぬと提起している点をも、考慮しなければならぬと思います。

ソ中両党の会談をひきのばすことは、なおさら解釈のしようがないのであります。第一回会

談からすでに八カ月が過ぎたのに、あなたがたはまた第二回会談をこれと同じぐらいの長い期間にひきのばそうと提案しています。ところが、わたしたち両党、両国の関係を改善し、世界共産主義運動とすべての民主勢力、革命勢力を団結させて、共同の反帝闘争を強化する利益は、現存する意見の相違をできるだけ早く調整するよう要求しています。わたしたち両党にとってひじょうに重要なことは、はてしのない論争におちいることなく、主要な注意力を集中してお互いが社会主義、共産主義を建設し、お互いの共同の敵すなわち帝国主義に反対する事業のなかで直面している大きな任務を解決することにあります。

あなたがたは、一九六四年十月にはじめて中ソ両党代表者の会談をおこなうと提案していますが、これは事実上、兄弟党会議を少なくとも一年おくらせ、それによって意見の相違の克服をひきのばし、しかも、それをいつそう激化させることを意味しています。わたしたちは、これはただ兄弟党に、国際共産主義運動ぜんたいに害をもたらすだけであると考えます。

わたしたちはまた、わずか一七の兄弟党(アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ベトナム、ドイツ民主共和国、中国、朝鮮、キューバ、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、ソ連、チェコスロバキア、インドネシア、日本、イタリア、フランス)の代表者が参加する準備会議の招集をあなたがたが提案した際にそのよりどころにしている理由を理解できないのです。

わたしたちは、かつて一九六〇年のモスクワ会議の起草委員会に参加し、共同して声明草案を準備したすべての兄弟党(アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ベトナム、ドイツ民主共和国、中国、朝鮮、キューバ、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、ソ連、チェコスロバキア、フランス、イタリア、ドイツ連邦共和国、イギリス、フィンランド、アルゼンチン、ブラジル、シリア、インド、インドネシア、アメリカ、日本、オーストラリア)の代表によって構成される準備会議が適当であると、考えています。

こうした構成は、革命運動の主な地域をふくんでおり、以前すべての兄弟党が賛同したものであり、また、過去の経験が示しているように、それは一九六〇年の会議の順調な運営と会議の文書の作成に役立ちました。いうまでもなく、国際会議招集の職責をおっているわが党は、あらゆる党と接触し、話し合うでしょう。

これらすべての考慮にもとづいて、ソ連共産党中央委員会はずきのように提案します。

- 一、一九六四年五月、北京において中ソ両党代表者会談を再開する。
 - 二、二六の兄弟党代表者による準備会議を、一九六四年六、七月に招集する。
 - 三、兄弟党と話し合ったうえ、一九六四年秋に国際会議を挙行する。
- ソ連共産党中央委員会は、これらすべての措置を実現するため、公開論戦を停止しなければなら

らず、社会主義共同体と共産主義運動のなかでいかなる転覆、分裂活動をすすめることも放棄しなければならぬ、と力をこめて指摘します。

わたしたちは、中国共産党中央委員会がわたしたちの出したこれらの提案に同意することができ、かつ、きめられた段どりの準備と実行にたいして建設的な貢献をするよう希望します。わたしたちの提案した措置は、意見の相違の克服と国際共産主義運動の団結にたいする深い関心からでたものです。これらの措置は社会主義諸国民、労働者階級、各国勤労者の根本的利益に合致し、共産主義の利益に合致するものです。

同志のあいさつをおくりします。

一九六四年三月七日

ソ連共産党中央委員会

中国共産党中央委員会と
ソ連共産党中央委員会の七つの往復書簡

1964年 初版発行

出版社 外文出版社

(北京 阜成門外百万莊)

発行者 中国国際書店

(北京 P. O. Box 399)

編号：(日) 3050-946

3-J-594P

00033

